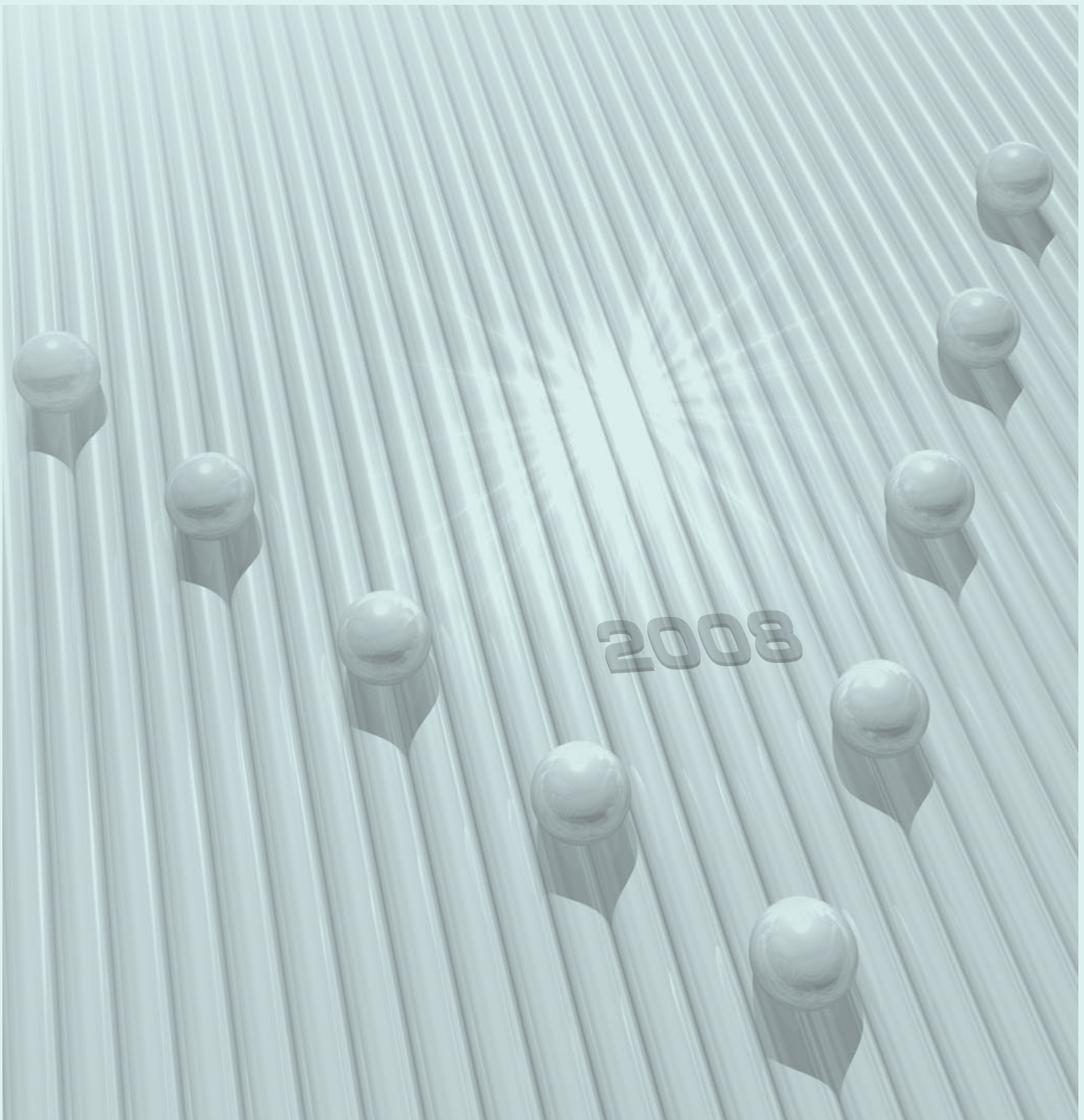


2008年度

シラバス

フランス語学科



獨協大学

—— 総 合 目 次 ——

シラバスの見方	-----	2
---------	-------	---

2008 年度入学者

フランス語学科 授業科目 目次	-----	3
-----------------	-------	---

2003～2007 年度入学者

フランス語学科 授業科目 目次	-----	4
-----------------	-------	---

外国語学部共通科目（2003 年度以降入学者用）

目 次	-----	7
-----	-------	---

担当者別授業内容	-----	9
----------	-------	---

シラバスの見方

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

「本シラバス」は2003年度以降入学生用の「フランス語学科」授業科目及び「外国語学部共通科目」授業科目のシラバスです。各自、以下の点に注意してください。

I 目次について

【シラバスページの検索方法】

- ① ページ両端にあるインデックスで自分の入学年度に適合する目次ページを確認してください。
- ② 目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。
注：入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。
科目名とページ番号をよく確認してください。

【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
- ② 表記方法
外：外国語学部 養：国際教養学部 経：経済学部 法：法学部
独：ドイツ語学科 済：経済学科 律：法律学科
英：英語学科 営：経営学科 国：国際関係学科
仏：フランス語学科 総：総合政策学科
言：言語文化学科 全：フランス語学科以外の全学部全学科

II シラバス本文の見方

- ①② 入学年度により科目名が異なります。
08年度以降・・・2008年度入学者
07年度以前・・・2003年度～2007年度入学者
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。
- ④ 学期の授業計画についての欄です。毎回ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑤ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。
- ⑥ 評価方法について記載されています。

【注意事項】

1. 履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ずシラバス本文(③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

2. 定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④ 第1週 春学期	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④ 第1週 秋学期	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

フランス語学科 授業科目(2008年度入学者用 目次)

学科基礎科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照して ください。	春	1	1	全	9
	フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	9
	フランス語Ⅰ(講読) 既修者のみ		春	1	1	全	10
	フランス語Ⅱ(講読) 既修者のみ		秋	1	1	全	10
	フランス語Ⅰ(総合)		春	1	1	全	11
	フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	11
	フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ		春	1	1	全	12
	フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ		秋	1	1	全	12
	フランス語Ⅰ(会話)		春	1	1	全	13
	フランス語Ⅱ(会話)		秋	1	1	全	13
	フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	14
	フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	14

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15245	フランス芸術文化入門Ⅰ	筒井 伸保	春	木1	2	1		39
15246	フランス芸術文化入門Ⅱ	筒井 伸保	秋	木1	2	1		39
15247	フランス現代社会入門Ⅰ	中村 公子	春	水3	2	1		57
15248	フランス現代社会入門Ⅱ	中村 公子	秋	水3	2	1		57

フランス語学科 授業科目 (2003～2007年度入学者用 目次)

学科基礎科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	フランス語Ⅰa・b(文法)	授業時間割表を参照して ください。	春・秋	1	1	全	9
	フランス語Ⅰa・b(講読) 既修者のみ		春・秋	1	1	全	10
	フランス語Ⅰa・b(総合)		春・秋	1	1	全	11
	フランス語Ⅰa・b(会話)		春・秋	1	1	全	13
	フランス語Ⅰa・b(LL)		春・秋	1	1	全	14
	フランス語Ⅱa・b(文法)		春・秋	1	2	全	15
	フランス語Ⅱa・b(講読)		春・秋	1	2	全	16
	フランス語Ⅱa・b(総合)		春・秋	1	2	全	17
	フランス語Ⅱa・b(TP) 既修者のみ		春・秋	1	2	全	18
	フランス語Ⅱa・b(会話)		春・秋	1	2	全	19
	フランス語Ⅱa・b(文章表現)		春・秋	1	2	全	20

学科共通科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	総合フランス語a	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	21
	総合フランス語b	授業時間割表を参照してください。	秋		2	3	全	21
09637	フランス語文章表現法a	B. レウルス	春	金2	2	3		22
09638	フランス語文章表現法b	B. レウルス	秋	金2	2	3		22
09641	フランス語文章表現法a	C. パジェス	春	月3	2	3		23
09642	フランス語文章表現法b	C. パジェス	秋	月3	2	3		23
09645	フランス語文章表現法a	Ch. ペリセロ	春	火3	2	3		24
09646	フランス語文章表現法b	Ch. ペリセロ	秋	火3	2	3		24
09643	フランス語文章表現法a	M. ミズバヤシ	春	火1	2	3		25
09644	フランス語文章表現法b	M. ミズバヤシ	秋	火1	2	3		25
09639	フランス語文章表現法a	PH. ヴァネ	春	水1	2	3		26
09640	フランス語文章表現法b	PH. ヴァネ	秋	水1	2	3		26
09735	和文仏訳a	小石 悟	春	火3	2	3		27
09736	和文仏訳b	小石 悟	秋	火3	2	3		27
09737	和文仏訳a	筒井 伸保	春	木3	2	3		28
09738	和文仏訳b	筒井 伸保	秋	木3	2	3		28
09612	フランス語会話a	C. ヴァリエヌ	春	火4	2	3		29
09613	フランス語会話b	C. ヴァリエヌ	秋	火4	2	3		29
09610	フランス語会話a	F. ルーセル	春	金2	2	3		30
09611	フランス語会話b	F. ルーセル	秋	金2	2	3		30
09614	フランス語会話a	M. P. ミュノーズ	春	火2	2	3		31
09618	フランス語会話b	M. P. ミュノーズ	秋	火2	2	3		31
09608	フランス語会話a	PH. ヴァネ	春	水2	2	3		32
09609	フランス語会話b	PH. ヴァネ	秋	水2	2	3		32
09619	フランス語会話a	S. ジュンタ	春	火3	2	3		33
09620	フランス語会話b	S. ジュンタ	秋	火3	2	3		33
09719	時事フランス語a	井上 美穂	春	木2	2	3		34
09720	時事フランス語b	井上 美穂	秋	木2	2	3		34
12687	時事フランス語a	中村 公子	春	水2	2	3		35
12688	時事フランス語b	中村 公子	秋	水2	2	3		35
09721	商業フランス語a	C. パジェス	春	月2	2	3		36
09722	商業フランス語b	C. パジェス	秋	月2	2	3		36
09723	商業フランス語a	大井 正博	春	金2	2	3		37
09724	商業フランス語b	大井 正博	秋	金2	2	3		37

学科専門科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09623	フランス語学概論a	田中 善英	春	火1	2	3		38
09624	フランス語学概論b	田中 善英	秋	火1	2	3		38
01635	フランス文学概論a	筒井 伸保	春	木1	2	1		39
01636	フランス文学概論b	筒井 伸保	秋	木1	2	1		39
09635	フランス語史a	田中 善英	春	金3	2	3		40
09636	フランス語史b	田中 善英	秋	金3	2	3		40
09681	フランス文学史a	横地 卓哉	春	水1	2	2		41
09682	フランス文学史b	横地 卓哉	秋	水1	2	2		41
14273	フランス語学各論a	小石 悟	春	水1	2	3		42
14274	フランス語学各論b	小石 悟	秋	水1	2	3		42
09627	フランス語学各論a	古川 直世	春	火3	2	3		43
09628	フランス語学各論b	古川 直世	秋	火3	2	3		43
09665	フランス文学各論a	伊藤 幸次	春	火3	2	3		44
09666	フランス文学各論b	伊藤 幸次	秋	火3	2	3		44
14275	フランス文学各論a	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		45
14276	フランス文学各論b	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		45
14283	フランス語学講読a	小石 悟	春	水2	2	3		46
14284	フランス語学講読b	小石 悟	秋	水2	2	3		46
12713	フランス語学講読a	田中 善英	春	金2	2	3		47
12714	フランス語学講読b	田中 善英	秋	金2	2	3		47
09633	フランス語学講読a	中村 公子	春	火3	2	3		48
09634	フランス語学講読b	中村 公子	秋	火3	2	3		48
09673	フランス文学講読a	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		49
09674	フランス文学講読b	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		49
09677	フランス文学講読a	伊藤 幸次	春	水1	2	3		50
09678	フランス文学講読b	伊藤 幸次	秋	水1	2	3		50
09629	フランス文学講読a	江花 輝昭	春	火1	2	3		51
09630	フランス文学講読b	江花 輝昭	秋	火1	2	3		51
11420	フランス文学講読a	田桐 正彦	春	火2	2	3		52
11421	フランス文学講読b	田桐 正彦	秋	火2	2	3		52
09679	フランス文学講読a	谷口 亜沙子	春	水2	2	3		53
09680	フランス文学講読b	谷口 亜沙子	秋	水2	2	3		53
09675	フランス文学講読a	筒井 伸保	春	火4	2	3		54
09676	フランス文学講読b	筒井 伸保	秋	火4	2	3		54
09671	フランス文学講読a	根本 祐徳	春	木2	2	3		55
09672	フランス文学講読b	根本 祐徳	秋	木2	2	3		55
09669	フランス文学講読a	横地 卓哉	春	月3	2	3		56
09670	フランス文学講読b	横地 卓哉	秋	月3	2	3		56

学科専門科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01723	フランス文化・社会概論a	中村 公子	春	水3	2	1		57
01724	フランス文化・社会概論b	中村 公子	秋	水3	2	1		57
01705	フランス事情	PH. ヴァネ	春	火1	2	2		58
01719	フランス事情	小石 悟	秋	火1	2	2		58
07566	フランスの歴史a	藤田 朋久	春	水2	2	2		59
07567	フランスの歴史b	藤田 朋久	秋	水2	2	2		59
07570	フランスの思想a	若森 栄樹	春	水1	2	2		60
07571	フランスの思想b	若森 栄樹	秋	水1	2	2		60
11410	フランスの美術a	前川 久美子	春	水2	2	2		61
11411	フランスの美術b	前川 久美子	秋	水2	2	2		61
07560	フランスの音楽a	松橋 麻利	春	木3	2	2		62
07561	フランスの音楽b	松橋 麻利	秋	木3	2	2		62
07568	フランスの演劇a	江花 輝昭	春	火2	2	2		63
07569	フランスの演劇b	江花 輝昭	秋	火2	2	2		63
09600	フランスの政治a	廣田 愛理	春	木3	2	3		64
09605	フランスの政治b	廣田 愛理	秋	木3	2	3		64
11977	フランスの経済a	千代浦 昌道	春	水2	2	3		65
11978	フランスの経済b	千代浦 昌道	秋	水2	2	3		65
09647	フランス文化・社会各論a	井上 たか子	春	木3	2	3		66
09648	フランス文化・社会各論b	井上 たか子	秋	木3	2	3		66
14277	フランス文化・社会各論a	廣田 愛理	春	水2	2	3		67
14278	フランス文化・社会各論b	廣田 愛理	秋	水2	2	3		67
09657	フランス文化・社会講読a	F. ルーセル	春	金3	2	3		68
09658	フランス文化・社会講読b	F. ルーセル	秋	金3	2	3		68
09655	フランス文化・社会講読a	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		69
09656	フランス文化・社会講読b	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		69
09663	フランス文化・社会講読a	井上 たか子	春	木2	2	3		70
09664	フランス文化・社会講読b	井上 たか子	秋	木2	2	3		70
09659	フランス文化・社会講読a	廣田 愛理	春	水1	2	3		71
09660	フランス文化・社会講読b	廣田 愛理	秋	水1	2	3		71
09661	フランス文化・社会講読a	藤田 朋久	春	火2	2	3		72
09662	フランス文化・社会講読b	藤田 朋久	秋	火2	2	3		72
09653	フランス文化・社会講読a	前川 久美子	春	火4	2	3		73
09654	フランス文化・社会講読b	前川 久美子	秋	火4	2	3		73
09651	フランス文化・社会講読a	若森 栄樹	春	金2	2	3		74
09652	フランス文化・社会講読b	若森 栄樹	秋	金2	2	3		74

外国語学部共通科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07690	総合講座	若森 栄樹	春	水3		2	1	養・経・法	75
07691	総合講座	若森 栄樹	秋	水3		2	1	養・経・法	75
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	76
	情報科学概論b	休講							
	情報科学各論(入門)	各担当教員						養・経・法	77
00208		内田 俊郎	春	木4	50	2	1		
00058		金子 憲一	春	月5	60	2	1		
00093		田中 雅英	春	火2	60	2	1		
00074		田中 雅英	春	火3	60	2	1		
00138		長崎 等	春	水1	60	2	1		
00253		松山 恵美子	春	月2	50	2	1		
13304		内田 俊郎	秋	木4	60	2	1		
	情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員						養・経・法	78
00019		内田 俊郎	春	木2	60	2	1		
00044		金子 憲一	春	月4	60	2	1		
00255		松山 恵美子	春	月3	60	2	1		
13306		内田 俊郎	秋	木3	60	2	1		
00076		田中 雅英	秋	火2	60	2	1		
00109		田中 雅英	秋	火4	60	2	1		
00141		長崎 等	秋	水1	60	2	1		
00231		松山 恵美子	秋	月3	60	2	1		
13162	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金子 憲一	春	月3	60	2	1		79
13164		金子 憲一	秋	月3	60	2	1		79
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員						養・経・法	80
00195		内田 俊郎	春	木3	60	2	1		
00210		内田 俊郎	秋	木2	60	2	1		
00060		金子 憲一	秋	月4	60	2	1		
00096		田中 雅英	秋	火3	60	2	1		
	情報科学各論(中級)								
15225	(プレゼンテーション)	金井 満	春	火2	30	2	1	養・経・法	81
15226	(プレゼンテーション)	金井 満	秋	火2	30	2	1	養・経・法	81
15227	(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	春	木2	30	2	1	養・経・法	82
15228	(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	秋	木2	30	2	1	養・経・法	82
15229	(Wordを使いこなす)	工藤 達也	春	火3	30	2	1	養・経・法	83
15230	(Wordを使いこなす)	工藤 達也	秋	火3	30	2	1	養・経・法	83
14281	(HTML正しく伝えるために)	田中 善英	春	金4	30	2	1	養・経・法	84
14282	(HTML美しく見せるために)	田中 善英	秋	金4	30	2	1	養・経・法	84
00048	(HTML応用1)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	85
00239	(表計算応用1)	松山 恵美子	秋	月2	30	2	1	養・経・法	86
16993	(自然言語データベース(コーパス)の処理技法入門1)	木村 恵	春	木4	50	2	2	英・養・経・法	87
15232	(自然言語データベース(コーパス)の処理技法入門2)	木村 恵	秋	木4	50	2	2	英・養・経・法	87
16994	(言葉の特徴をコンピュータで見る1)	吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	英・養・経・法	88
15234	(言葉の特徴をコンピュータで見る2)	吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	英・養・経・法	88
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	350	2	1	養・経・法	89
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	350	2	1	養・経・法	89
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 I a (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
一年間のうちにフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。 未修クラスは週 2 回（1 コマずつ）授業が行われます。 既修クラスは週 1 回授業が行われます。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		（クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として春学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。なお、これを参考にできるのは未修クラスのみです。） 冠詞 名詞・形容詞の男性形・女性形と単数・複数 形容詞の位置 所有形容詞 指示形容詞 疑問形容詞 比較級と最上級 直説法現在の動詞の活用 （être, avoir, -er, -ir, 不規則動詞） 否定形と疑問形 否定文中の de 冠詞の縮約 近接未来と近接過去 代名動詞 等 （順不同）	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 I b (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		（クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として秋学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。なお、これを参考にできるのは未修クラスのみです。） 直説法複合過去・半過去・大過去 直説法単純未来・前未来 命令法・受動態・感嘆文 中性代名詞 人称代名詞（直接目的語と間接目的語） 関係代名詞 指示代名詞・所有代名詞・疑問代名詞 条件法 話法（直接話法と間接話法） 接続法 現在分詞とジェロンディフ 使役動詞（faire と laisser） 等 （順不同）	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前 (既修クラス)	フランス語Ⅰ (講読) フランス語Ⅰa (講読)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としており、1年では既修クラスのみ履修します。 使用教材や授業の進め方については、最初に担当教員より説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前 (既修クラス)	フランス語Ⅱ (講読) フランス語Ⅰb (講読)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (総合) フランス語 I a (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。 この授業は週 2 回あり（同日 2 コマ続き）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Reflets 1</i> を使います。 未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。 既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。 進度や授業方法は担当の先生から最初に指示があります。		1. <i>Champion</i> Unité 0 <i>Reflets</i> Dossier 0	
		2. <i>Champion</i> Unité 1 <i>Reflets</i> Dossier 1	
		3.	
		4. <i>Champion</i> Unité 2	
		5.	
		6. <i>Champion</i> Unité 3 <i>Reflets</i> Dossier 2	
		7.	
		8. <i>Champion</i> Unité 4 <i>Reflets</i> Dossier 3	
		9.	
		10. <i>Champion</i> Bilan 1	
		11. <i>Champion</i> Unité 5 <i>Reflets</i> Dossier 4	
		12.	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i> <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (総合) フランス語 I b (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		1. <i>Champion</i> Unité 6 <i>Reflets</i> Dossier 5	
		2.	
		3. <i>Champion</i> Unité 7	
		4.	
		5. <i>Champion</i> Unité 8 <i>Reflets</i> Dossier 6	
		6.	
		7. <i>Champion</i> Bilan 2	
		8.	
		9. <i>Champion</i> Unité 9 <i>Reflets</i> Dossier 7	
		10.	
		11. <i>Champion</i> Unité 10	
		12.	
		13. (原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 (既修クラス)	フランス語 I (TP)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、問題練習と個人作業を行います。 この授業は1年1組のみ履修します。 各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。 教材や授業の進め方等については担当教員から最初に説明があります。		担当教員より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員より指示されます。		担当教員より指示されます。	

08年度以降 (既修クラス)	フランス語 II (TP)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (会話) フランス語 I a (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。先生はフランス人もしくはフランス語のネイティブスピーカーで、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。 未修クラスのみ履修する授業です。 「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。 (既修クラスにはこの授業はありません。)		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (会話) フランス語 I b (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 I a (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。 未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ <i>Champion 1</i> を使用します。 既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。 どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i> <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 I a (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

07 年度以前	フランス語 IIa (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は初級文法を終えた学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

07 年度以前	フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

07 年度以前	フランス語 IIa（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

07 年度以前	フランス語 IIb（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

07 年度以前	フランス語 IIa （総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。 授業は週 2 回あり（同日 2 コマ続き）、2 組～5 組では「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使います。 1 組は <i>Panorama 2</i> を使って、ネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。		1. <i>Champion 1</i> Unité 11 <i>Panorama 2</i> Leçon 1 2. _____ 3. <i>Champion 1</i> Unité 12 4. _____ <i>Panorama 2</i> Leçon 2 5. <i>Champion 1</i> Bilan 3 6. _____ <i>Panorama 2</i> Leçon 3 7. <i>Champion 1</i> Unité 13 8. _____ 9. <i>Champion 1</i> Unité 14 <i>Panorama 2</i> Leçon 4 10. _____ 11. <i>Champion 1</i> Unité 15 <i>Panorama 2</i> Leçon 5 12. _____ 13. (原則として上記のような進度になりますが、クラスによって差があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i> <i>Panorama 2</i>		担当の先生より指示されます。	

07 年度以前	フランス語 II b （総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		1. <i>Champion 1</i> Unité 16 <i>Panorama 2</i> Leçon 6 2. _____ 3. <i>Champion 1</i> Bilan 4 4. _____ <i>Panorama 2</i> Leçon 7 5. <i>Champion 2</i> Unité 1 6. _____ 7. <i>Champion 2</i> Unité 2 <i>Panorama 2</i> Leçon 8 8. _____ 9. <i>Champion 2</i> Unité 3 10. _____ <i>Panorama 2</i> Leçon 9 11. <i>Champion 2</i> Bilan 1 12. <i>Champion 2</i> Unité 4 13. (原則として上記のような進度になりますが、クラスによって差があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i> <i>Panorama 2</i>		同上。	

07 年度以前 (既修クラス)	フランス語 II a (TP)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、問題練習と個人作業を行います。 この授業は2年1組のみ履修します。 各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。 教材や授業の進め方等については担当教員から最初に説明があります。		担当教員より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員より指示されます。		担当教員より指示されます。	

07 年度以前 (既修クラス)	フランス語 II b (TP)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

07年度以前	フランス語 IIa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をのばすことを目的としています。担当教員はフランス人もしくはフランス語のネイティブスピーカーで、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。 この授業は2年2組～5組までの学生が履修します。 2年1組にはこの授業はありません。 「総合」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を用います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 II a（総合）」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

07年度以前	フランス語 IIb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II b(総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

06～07 年度 03～05 年度	フランス語 II a (文章表現) フランス語 II a (L L)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。 必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。 具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。 (注意) 「フランス語 II a, b (LL)」の再履修は、2年生に昨年度から導入されたこの科目(「文章表現」)を履修してください。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

06～07 年度 03～05 年度	フランス語 II b (文章表現) フランス語 II b (L L)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

07 年度以前	総合フランス語 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Panorama II</i> à partir de la leçon 10 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion II</i> à partir de l'unité 5. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. <u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.		1. <i>Champion</i> Unité 5 <i>Panorama</i> Leçon 10	
		2.	
		3.	
		4. <i>Champion</i> Unité 6	
		5.	
		6. <i>Panorama</i> Leçon 11	
		7. <i>Champion</i> Bilan 2	
		8. <i>Champion</i> Unité 7	
		9.	
		10. <i>Panorama</i> Leçon 12	
		11. <i>Champion</i> Unité 8	
		12.	
		13. Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U7 (<i>Champion</i>)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion II</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et CD.		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

07 年度以前	総合フランス語 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir les explications du premier semestre.		1. <i>Champion</i> Unité 9 <i>Panorama</i> Leçon 13	
		2.	
		3.	
		4. <i>Champion</i> Bilan 3	
		5. <i>Champion</i> Unité 10 <i>Panorama</i> Leçon 14	
		6.	
		7.	
		8. <i>Champion</i> Unité 11	
		9.	
		10. <i>Panorama</i> Leçon 15	
		11. <i>Champion</i> Unité 12 + Bilan 4	
		12.	
		13. Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U10 ou 11 (<i>Champion</i>)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion II</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et CD.		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

07 年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	B.P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
授業は、フランス語の広告、ポスター、チラシ、テレビの C・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。 Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical. 参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8		1・フランス生活暦(1): 年中行事・祭り・イベント 2・食卓の楽しみ: marché (朝市の文化史) 3・食卓の楽しみ: パリだけではない美食の国(南仏) 4・食卓の楽しみ: パリだけではない美食の国(ブルターニュ地方) 5・Cannes2008 年国際映画祭 6・「第七芸術」: フランス映画 7. フランス映画の復活: 2001 年 ~ 8・パリは映画愛好者の天国 9・フランス食文化: 夏に食べる料理 10・カフェはどんな場所? 11・フランス 3 ブランド(食) のすごい冒険! (1) 12・パンの文化史 13: 評価・テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
« Cahiers thématiques 1 & 2 » 『カイエ・テマティック 1・2』 第三書房 ISBN 4-8086-2155 / 4-8086-2156		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

07 年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	B.P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
授業は、フランス語の広告、ポスター、チラシ、テレビの C・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。 Au second semestre, nous continuerons la méthode mais avec des activités d'expression écrite de niveau plus difficile; nous aborderons également de nouveaux thèmes. 参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8		1・フランス生活暦(2): 年中行事・祭り・イベント 2・フランスの Nouveau cinéma(1): Luc BESSON 3・新しい世代のシネアスト: François OZON 4・映画の中の Paris: Amélie & Angel-A 5・ワイン産地: Beaujolais 6・典型的なフランス料理 7・食事を美味しく終わらせる: les desserts 8・フランス 3 ブランド(食) のすごい冒険! (2) 9・Noël à Paris 10: ノエルと昔の料理 11・映画: « Joyeux Noël » 12・フランス 3 ブランド(食) のすごい冒険! (3) 13・評価・テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
« Cahiers thématiques 1 & 2 » 『カイエ・テマティック 1・2』 第三書房 ISBN 4-8086-2155 / 4-8086-2156		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。	

07 年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger une lettre, remplir un formulaire d'inscription, ainsi que rédiger de (petits) textes très utiles pour les e-mails (courriels) ou des lettres sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, arts, société, cinéma, cuisine et vins, voyages, mode, famille, politique, etc. この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。 手紙の書き方、申請書への記入の仕方をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・美術・社会問題・映画・料理・ワイン・旅行・ファッション・家族問題・政治など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。		次の内容を春学期で扱います。 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 1 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 2 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 3 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 4 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07 年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger une lettre, remplir un formulaire d'inscription, ainsi que rédiger de (petits) textes très utiles pour les e-mails (courriels) ou des lettres sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, arts, société, cinéma, cuisine et vins, voyages, mode, famille, politique, etc. この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。 手紙の書き方、申請書への記入の仕方をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・美術・社会問題・映画・料理・ワイン・旅行・ファッション・家族問題・政治など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。		次の内容を秋学期で扱います。 1. Introduction du sujet de composition 5 2. Réflexion / explication / rédaction 3. Corrigé et commentaires 4. Introduction du sujet de composition 6 5. Réflexion / explication / rédaction 6. Corrigé et commentaires 7. Introduction du sujet de composition 7 8. Réflexion / explication / rédaction 9. Corrigé et commentaires 10. Introduction du sujet de composition 8 11. Réflexion / explication / rédaction 12. Corrigé et commentaires 13. Composition finale	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07 年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Bonjour, Dans ce cours, nous travaillerons d'abord l'écriture d'une lettre amicale puis officielle. Ces pratiques vous seront utiles pour améliorer votre expression écrite (vocabulaire, grammaire, organisation des idées) mais aussi pour passer les épreuves écrites des niveaux A1 et A2 du DELF.		Cours 1 à 6 : La lettre amicale. Cours 7 à 13 : La lettre officielle (demande d'informations, réclamation, etc...)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et des « méthodologies » pour composer une lettre amicale et officielle.		L'évaluation se fera à partir des présence, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen en été.	

07 年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Bonjour, Dans ce cours, nous travaillerons la composition d'un court essai. Nous verrons comment organiser des idées en faisant <u>un plan</u>. Savoir faire un plan est utile pour les exercices écrits que vous pouvez faire dans des universités françaises ou pour passer des examens comme les niveaux B1 et B2 du DELF pour aller étudier en France.		Cours 1 à 2 : Lecture du sujet. Cours 3 à 4 : Recherche des idées et choix du plan. Cours 5 à 6 : Organisation des idées. Cours 6 à 7 : Ecriture de l'introduction et de la conclusion. Cours 8 à 13 : Rédaction de courts essais.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et une « méthodologie » pour composer un court essai.		L'évaluation se fera à partir des présence, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen en janvier.	

07 年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.		Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

07 年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.		Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée	

07 年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
On n'a jamais autant écrit depuis l'arrivée des téléphones portables et de l'internet. L'écriture est à la fois un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses propres idées et sentiments. Dans ce but, elle fait appel à des règles de logique que nous essaierons de découvrir en classe : 1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition. 2) Travail sur le plan. 3) Comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe. Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.		1. le 1^{er} semestre consiste en l'étude des articulations logiques. 5 Remise du devoir (1^{ère} fois) 8 Remise du devoir (2^e fois) 12 Remise du devoir (3^e fois) 13	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2008.		Le grand devoir semestriel est noté.	

07 年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Suite du premier semestre, en particulier étude sur les questions de plan.		1. le 2^e semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes 5 Remise du devoir (1^{ère} fois) 8 Remise du devoir (2^e fois) 12 Remise du devoir (3^e fois) 13	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2008.		Le grand devoir semestriel est noté.	

07 年度以前	和文仏訳 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 日本語のテキストをもとにするが、逐語訳するのではなく、自分の知っている構文を用いて、省略、倒置、言い換えなどを行いながら、自然なフランス語を書けるようなことを目指す。 授業の概要 作文が上達するためには、書いたものを直して間違いに気づくしかない。この授業では、模範解答を見る前に、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考える。その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけるようにする。		授業計画 第1回： ガイダンス 第2回： 関係代名詞を含む文 1 第3回： 関係代名詞を含む文 2 第4回： 条件法を含む文 1 第5回： 接続法を含む文 2 第6回： 理由を表す文 1 第7回： 理由を表す文 2 第8回： 結果を表す文 1 第9回： 結果を表す文 2 第10回： 譲歩を表す文 1 第11回： 譲歩を表す文 2 第12回： 目的を表す文 1 第13回： 目的を表す文 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		テスト	

07 年度以前	和文仏訳 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 日本語のテキストをもとにするが、逐語訳するのではなく、自分の知っている構文を用いて、省略、倒置、言い換えなどを行いながら、自然なフランス語を書けるようなことを目指す。 授業の概要 作文が上達するためには、書いたものを直して間違いに気づくしかない。この授業では、模範解答を見る前に、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考える。その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけるようにする。		授業計画 第1回： ガイダンス 第2回： 単行本からの抜粋 1 第3回： 単行本からの抜粋 2 第4回： 単行本からの抜粋 3 第5回： 単行本からの抜粋 4 第6回： 単行本からの抜粋 5 第7回： 単行本からの抜粋 6 第8回： 週刊誌記事からの抜粋 1 第9回： 週刊誌記事からの抜粋 2 第10回： 週刊誌記事からの抜粋 3 第11回： 週刊誌記事からの抜粋 4 第12回： 週刊誌記事からの抜粋 5 第13回： 週刊誌記事からの抜粋 6	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		テスト	

07 年度以前	和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
1、2 年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。 簡単な単文（主語＋動詞の文）から、複文（様々な従属節—時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文）までの練習を行う。授業は下記の教科書の練習問題を扱う。昨年度はこの教科書の 6 課までを扱ったので、今年度は 7 課以降を扱う。 履修する学生は自分の試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員が当たるので予習が必須である。 人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず 1 回目の授業に出席すること。 和仏辞典についての注意:和仏辞典(電子版を含む)の付録に付いている和仏語彙集では足りない。白水社の『現代和仏小辞典』か、旺文社の『プチ・ロワイヤル和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。		1 回目:授業の説明。人数過多の場合は簡単なテストにより受講者制限を行う。 2 回目以降教科書に沿って授業を進める（7 課以降）。3 回の授業で 1 課を終える進度が標準。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書:中村栄子『新フランス語作文実習 I(改訂版)』駿河台出版社		平常点(出席・授業への参加度)と学期末試験（ノート・辞書持ち込み不可）	

07 年度以前	和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
上記参照。		教科書に沿って授業を進める（1 1 課以降）。3 回の授業で 1 課を終える進度が標準。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

07 年度以前	フランス語会話 a	担当者	C. ヴァリエンス
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Il s'agit d'améliorer la compréhension et l'expression orales Déroulement du cours : 1) “Quoi de neuf ?” exercice d'expression orale libre où chaque étudiant parle de ce qu'il a fait pendant la semaine, de ses projets, des situations qui l'ont surpris, des questions qu'il se pose, etc... 2) Mise en commun du vocabulaire et des expressions concernant le thème abordé 3) Préparation par groupe de deux étudiants, d'un dialogue réutilisant le vocabulaire présenté en début de classe. 4) Le dialogue sera joué en classe après avoir travailler la prononciation et l'intonation 5) Conversation à préparer pour la semaine suivante avec des questions données par le professeur pour réfléchir plus en profondeur sur un sujet et en discuter en classe		Les thèmes abordés 1. Le cinéma 2. La musique 3. La cuisine 4. Les medias 5. La peinture 6. L'éducation 7. Le sport 8. Les animaux 9. Le quotidien 10. Les différences culturelles 11. La famille 12. L'avenir 13. L'environnement	
テキスト、参考文献		評価方法	
- photocopies - dictionnaire		- présence - participation en classe - examen oral	

07 年度以前	フランス語会話 b	担当者	C. ヴァリエンス
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Il s'agit d'améliorer la compréhension et l'expression orales à partir d'un document authentique (article, audio ou video). Déroulement du cours : 1) “Quoi de neuf ?” 2) Mise en commun du vocabulaire et des expressions concernant le thème abordé. 3) Etude du document authentique 4) Questions de compréhension orale. 5) Correction et travail de lecture de la transcription. 6) Conversation à préparer pour la semaine suivante avec des questions données par le professeur pour réfléchir plus en profondeur sur un sujet et en discuter en classe		Les thèmes abordés 1. Le cinema 2. La musique 3. La cuisine 4. Les medias 5. La peinture 6. L'éducation 7. Le sport 8. Les animaux 9. Le quotidien 10. Les différences culturelles 11. La famille 12. L'avenir 13. L'environnement	
テキスト、参考文献		評価方法	
- photocopies - dictionnaire		- presence - participation en classe - examen oral	

07 年度以前	フランス語会話 a	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...). Contenu de chaque cours : 1) Quoi de neuf ? 2) Exposé présenté par un-e étudiant-e 3) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance Chaque étudiant-e devra présenter un exposé durant le semestre. Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents déclencheurs) seront différents. Une assiduité parfaite est requise. La participation active à la classe est prise en compte pour l'évaluation.		1. Présentation du cours, technique de l'exposé 2. L'actualité en France 3. L'actualité au Japon 4. La chanson, la musique 5. Le cinéma, la télévision 6. La littérature, la lecture 7. Les Beaux-Arts, les musées 8. Questions de société actuelles 9. Questions politiques actuelles 10. Questions d'environnement 11. Les hommes et les femmes, la parité, le couple 12. L'éducation. Etre étudiant-e aujourd'hui 13. « Le bonheur », les bonheurs de la vie	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Contrôle continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

07 年度以前	フランス語会話 b	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...). Contenu de chaque cours : 4) Quoi de neuf ? 5) Exposé présenté par un-e étudiant-e 6) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance Chaque étudiant-e devra présenter un exposé durant le semestre. Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents déclencheurs) seront différents. Une assiduité parfaite est requise. La participation active à la classe est prise en compte pour l'évaluation.		1. Présentation du cours, technique de l'exposé 2. L'actualité en France 3. L'actualité au Japon 4. La chanson, la musique 5. Le cinéma, la télévision 6. La littérature, la lecture 7. Les Beaux-Arts, les musées 8. Questions de société actuelles 9. Questions politiques actuelles 10. Questions d'environnement 11. Les hommes et les femmes, la parité, le couple 12. L'éducation. Etre étudiant-e aujourd'hui 13. « Le bonheur », les bonheurs de la vie	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Contrôle continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

07 年度以前	フランス語会話 a	担当者	ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de réviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques. A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront répondre à des questions de compréhension et discuter des différents sujets abordés dans les documents.		1. Présentation à travers un jeu de questions-réponses. 2. L'habitat 3. Exercices et Discussion 4. La musique 5. Exercices et Discussion 6. Le travail 7. Exercices et Discussion 8. L'argent 9. Exercices et Discussion 10. La télé 11. Exercices et Discussion 12. Les vacances 13. Exercices et Discussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

07 年度以前	フランス語会話 b	担当者	ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de réviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques. A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront répondre à des questions de compréhension et discuter des différents sujets abordés dans les documents.		1. Révisions 2. Les langues 3. Exercices et Discussion 4. Le cinéma 5. Exercices et Discussion 6. Internet 7. Exercices et Discussion 8. La lecture 9. Exercices et Discussion 10. Les vêtements, la mode 11. Exercices et Discussion 12. Les bonnes résolutions 13. Exercices et Discussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

07 年度以前	フランス語会話 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>But</u> : S'exprimer en français sur des sujets d'actualité, s'efforcer à bien prononcer. <u>Méthode</u> : 1) différents jeux pour apprendre à se connaître en parlant en français. 2) trois types d'activités possibles : a) petits exposés sur des sujets d'actualité. b) choix de textes (extraits de roman, poésie, articles de journaux, etc) à lire en public avec une bonne prononciation et une bonne intonation. c) Selon le souhait des étudiants, on peut envisager la réalisation d'un projet commun à tous, par exemple : une émission d'information, une petite pièce de théâtre, etc.		La progression de la classe dépendra essentiellement du niveau, des souhaits et de la volonté des étudiants. Voir ce que j'ai écrit à gauche.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple : <i>Larousse</i> de poche 2008.		Participation aux exercices ; exposés.	

07 年度以前	フランス語会話 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir le premier semestre		Voir le premier semestre.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple : <i>Larousse</i> de poche 2008.		Participation aux exercices ; exposés.	

07 年度以前	フランス語会話 a	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義のねらい】 聞く、書く、読む、話す、ということば本来の機能を総合的に身につけるクラスです。この授業は、毎回出席がでにくい4年生、また、仏検2級、準2級、3級の受験準備をしたい学生を対象とします。 【講義内容】 書き取りから会話までを総合的に習得。 聞き取り：フランス語の短文テキストを毎回聞く。 書き取り：日本語翻訳を参考にしながら、録音されたテキストを書く。 読み：次にテキストを読み、間違いを訂正し、語彙や表現を習得する。 会話：最後に、テキストのテーマについて会話形式で話し合う。 注意 ♣ 毎週違ったテキストを使用するので、欠席があった場合でも、次回の授業にひびくことはありません。 ♣ 時間の許す限り、テーマにあったパリやフランス各地方のDVDを紹介します。		第1回 パリの20区 - 1 第2回 パリの20区 - 2 第3回 パリの20区 - 3 第4回 チェック&アンサー 第5回 パリの建物 - 1 第6回 パリの建物 - 2 第7回 チェック&アンサー 第8回 フランスの地方 - 1 第9回 フランスの地方 - 2 第10回 チェック&アンサー 第11回 バカンスとパス・タイム - 1 第12回 バカンスとパス・タイム - 2 第13回 チェック&アンサー / 復習と読み方	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎週コピーを配布。		チェック&アンサー 又は レポート - 定期試験なし	

07 年度以前	フランス語会話 b	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義のねらい】 「聞く、書く、読む、話す、」ということば本来の機能を総合的に身につけるクラスです。この授業は、毎回出席がでにくい4年生、また、仏検2級、準2級、3級の受験準備をしたい学生を対象とします。 【講義内容】 書き取りから会話までを総合的に習得。 聞き取り：フランス語の短文テキストを毎回聞く。 書き取り：日本語翻訳を参考にしながら、録音されたテキストを書く。 読み：次にテキストを読み、間違いを訂正し、語彙や表現を習得する。 会話：最後に、テキストのテーマについて会話形式で話し合う。 注意 ♣ 毎週違ったテキストを使用するので、欠席があった場合でも、次回の授業にひびくことはありません。 ♣ 時間の許す限り、テーマにあったパリやフランス各地方のDVDを紹介します。		第1回 美食の地方 - 1 第2回 美食の地方 - 2 第3回 チェック&アンサー 第4回 買い物とセール - 1 第5回 買い物とセール - 2 第6回 チェック&アンサー 第7回 フランス映画 - 1 第8回 フランス映画 - 2 第9回 チェック&アンサー 第10回 ファッション - 1 第11回 ファッション - 2 第12回 チェック&アンサー 第13回 復習と読み方	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎週コピーを配布。		チェック&アンサー 又は レポート - 定期試験なし	

07 年度以前	時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標は、以下の 3 点です。 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 毎回の授業で、この 3 つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組の録画を見て、その大筋をつかむ練習と、ききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの新聞記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の 3 つの練習は、すべてパソコンを使って行います。		基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを 3 つの練習の共通テーマとします。2008 年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2007 年度春学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。 1. 高速鉄道 TGV 世界最速を記録 2. フランス大統領選挙 3. 大統領決選投票 4. 日産自動車、減益 5. バイオエタノール 6. カヌヌ映画祭 7. サルコジ氏と新内閣 8. エアバス対ボーイング 9. 地球温暖化 10. ベルサイユ宮殿で新たな発見 11. ボルドーでワイン見本市 12. EU が新たな条約作り 13. Asterix et Obelix	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはありません。辞書を必ず持参のこと。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。ABC 等の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

07 年度以前	時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標は、以下の 3 点です。 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 毎回の授業で、この 3 つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組の録画を見て、その大筋をつかむ練習と、ききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの新聞記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の 3 つの練習は、すべてパソコンを使って行います。		基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを 3 つの練習の共通テーマとします。2008 年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2007 年度秋学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。 1. ビルマで日本人ジャーナリスト死亡 2. ドーピングとツールドフランス 3. 東京ゲームショーと日本のポップカルチャー 4. スイス総選挙で右傾化 5. アンコール遺跡の展示館が開館 6. フランスの団体がチャドで違法な養子縁組か 7. 大西洋まぐろ類保存国際委員会、開催 8. サッカー W 杯 予選抽選会 9. ガリレオ計画 始動へ 10. もうすぐクリスマス 11. パリ島で COP13 が開かれる 12. ダカール・ラリー中止へ 13. モナリザはやっぱりリザだった	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはありません。辞書を必ず持参のこと。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。ABC 等の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

07 年度以前	時事フランス語 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<授業目的> フランス語の聴解（＝Compréhension orale）練習。様々なタイプの聴解練習を通して、必要な情報を聞き取るために必要な「耳」の訓練を行う。 <授業概要> フランス語を聞いて内容に関する質問に答える。また「聞く」ために必要になる音の聞き分けを助けるため、発音練習やディクテ、chansons 等も取り入れる。 （仏検準 2 級～2 級取得を目指すレベル。） この授業はフランスに長期留学／長期滞在をしていない人を対象に行います。フランスに長期滞在していた人は受講しないでください。（一ヶ月程度の語学研修は可。）		教材の一例 （順不同） 1. 電話の自動案内・留守番電話・電話応対 2. 駅・ホテル・レストランでの会話 3. 市場・店内での買い物 4. 天気予報・各地の気候 5. 病院・緊急時 6. 番組案内・映画案内・コマーシャル 7. 観光案内・旅行者の会話 8. 時事問題のレジュメの聞き取り 9. ニュース抜粋 10. その他のテレビ・ラジオ番組 11. 物語・歌からの抜粋 12. 不動産屋でアパート探し 13. クレームを言う時	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント、音声教材。		出席、授業参加態度、課題、授業でのテスト、定期試験。	

07 年度以前	時事フランス語 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		教材の一例 （順不同） 1. Prendre contact 2. Parler de ses activités et de ses goûts 3. Faire des projets et prendre rendez-vous 4. Demander son chemin et décrire un lieu 5. Parler d'un objet 6. Expliquer le problème et proposer une solution 7. Demander et donner des renseignements 8. Raconter – expliquer – justifier 9. Faire des prévisions 10. Donner des consignes 11. Donner des conseils 12. Exprimer une opinion 13. L'enquête	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント、音声教材。		出席、授業参加態度、課題、授業でのテスト、定期試験。	

07 年度以前	商業フランス語 a	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。		次の内容を春学期で扱います。 Découvrez l'entreprise Organisation du travail Fonction dans l'entreprise Professions et métiers Rechercher un emploi Les pratiques de recrutement Les contrats de travail	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07 年度以前	商業フランス語 b	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。		次の内容を秋学期で扱います。 Les relations dans le travail Prendre contact par téléphone Traitement du courrier Lettres et télécopies Erreurs et excuses Organiser son emploi du temps Organiser un déplacement	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07 年度以前	商業フランス語 a	担当者	大井 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、フランスのテレビで放映されている各種経済活動に関する番組を見ながら、そこで使われているさまざまな用語や言い回しを覚えることを主眼としている。テキストについては必要に応じてコピーを配る予定である。		1&2 各種商業活動 3&4 売買用語 5&6 広告用語 7&8 会社経営用語 9&10 経済理論用語 11&12 銀行・証券用語 13 紳士録 Who's Who in France の読み方	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
なし		受講条件：なし 評価方法：定期試験	

07 年度以前	商業フランス語 b	担当者	大井 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、フランスのテレビで放映されている各種経済活動に関する番組を見ながら、そこで使われているさまざまな用語や言い回しを覚えることを主眼としている。テキストについては必要に応じてコピーを配る予定である。		1&2 フランスの主要企業 3&4 フランスの先端産業 5&6 フランスの観光産業 7&8 フランスの食品産業 9&10 スーパーマーケット 11&12 各種公共交通の紹介 13 フランスの生活慣習	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
なし		受講条件：なし 評価方法：定期試験	

07 年度以前	フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、現代フランス語の仕組みを解明する。今年度は、動詞の時制以外を中心に講義する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。 受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、1・2年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め復習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。 その他：詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明 第2回以降：以下のようなテーマを扱う（順不同） [音声] ・フランス語の音声体系。なぜ、フランス語ではリエゾン、エリゾオンなどが起こるのか。 [冠詞] ・なぜ、初出の名詞にも定冠詞が付くことがあるのか。 ・不定冠詞を用いた総称文は定冠詞を用いた総称文とどう異なるのか。 [構文] ・なぜ、非人称構文が存在するのか。 ・なぜ、受動態という形式が存在するのか。 ・なぜ、Que Pierre a-t-il fait ? とは言えないのか。 ・なぜ、疑問文以外でも主語倒置は起こるのか。 ・使役構文と放任構文の仕組み。 [代名詞] ・そもそも中性代名詞とは何か。 [前置詞] ・主な前置詞の本質的価値。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、授業への積極的参加姿勢、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

07 年度以前	フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅰ フランス文学概論 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの芸術・文化に関する基礎知識を習得させ、「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を行う。そのため、フランスの芸術・文化について、広範囲、多岐に、概括的なテーマを取り上げ、講義を行う。 「フランス芸術文化入門Ⅰ」（春学期）では、特に文学を取り上げ、フランス近・現代文学に関する、概説的な講義を行う。1年生を主な対象とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを使用し、初心者に分かりやすくフランス文学と親しむ機会を提供したい。 フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目となっていますので、授業はフランス語学科生対象として行います。」		第1回（4/10）： ガイダンス（筒井伸保） 第2回（4/17）： 19世紀の文学1（伊藤幸次） 第3回（4/24）： 19世紀の文学2（伊藤幸次） 第4回（5/1）： 19世紀の文学3（伊藤幸次） 第5回（5/8）： 恋愛小説1（根本祐徳） 第6回（5/15）： 恋愛小説2（根本祐徳） 第7回（5/22）： 恋愛小説3（根本祐徳） 第8回（5/29）： 20世紀の文学1（谷口亜沙子） 第9回（6/5）： 20世紀の文学2（谷口亜沙子） 第10回（6/12）： 20世紀の文学3（谷口亜沙子） 第11回（6/19）： 大衆文学1（筒井伸保） 第12回（6/26）： 大衆文学2（筒井伸保） 第13回（7/3）： 大衆文学3（筒井伸保）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリント。参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点（出席）を加味する。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅱ フランス文学概論 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は上記参照。 「フランス芸術文化入門Ⅱ」（秋学期）では、文学以外の芸術文化一般を取り上げ、フランスの文化・芸術の各分野毎の概説・入門的な講義を行う。1年生を主な対象とするので、できるだけ映像資料や音声資料などを使用し、初心者に分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示する。 フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目となっていますので、授業はフランス語学科生対象として行います。」		第1回（9/25）： 宮廷文化1（江花輝昭） 第2回（10/2）： 宮廷文化2（江花輝昭） 第3回（10/9）： 宮廷文化3（江花輝昭） 第4回（10/16）： 思想入門1（若森栄樹） 第5回（10/23）： 思想入門2（若森栄樹） 第6回（10/30）： 思想入門3（若森栄樹） 第7回（11/6）： 音楽への誘い1（松橋麻利） 第8回（11/13）： 音楽への誘い2（松橋麻利） 第9回（11/20）： 音楽への誘い3（松橋麻利） 第10回（11/27）： ルネサンス1（筒井伸保） 第11回（12/4）： ルネサンス2（筒井伸保） 第12回（12/11）： ルネサンス3（筒井伸保） 第13回（12/18）： まとめ（筒井伸保）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリント。参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点（出席）を加味する。	

07 年度以前	フランス語史 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：フランス語の歴史を概説しながら、現代フランス語において一見不思議に見える現象を説明していく。必要に応じてラテン語についても触れる。 その他：受講者のフランス語力は問わないが、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。 その他：詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明 第2回以降：以下のようなテーマを扱う（順不同） ・なぜ、言語は生まれ、死んでいくのか。 ・なぜ、70 を <i>soixante-dix</i> と言うのか。 ・なぜ、名詞には性があるのか。 ・なぜ、Charles (男) は1人でも s が付くのか。François は Français なのか。 ・なぜ、女性なのに、<i>grande-mère</i> ではなく、<i>grand-mère</i> なのか。なぜ、女性の友人なのに、<i>mon amie</i> なのか。 ・なぜ、「春」だけ <i>au printemps</i> なのか。 ・なぜ、前置詞 <i>à</i> には日本語の「に」「へ」「から」と多岐にわたる用法があるのか。 ・なぜ、<i>aller</i> の活用形は語幹さえ替わるのか。 ・なぜ、否定には <i>ne</i> と <i>pas</i> という2つの要素が必要なのか。否定文中の名詞の前に付く <i>de</i> は何か。虚辞の <i>ne</i> とは何か。なぜ、否定文で用いられる <i>rien</i> と <i>personne</i> は語順が違うのか。 ・なぜ、<i>beau</i> には <i>bel</i> という男性第二形があるのか。 ・なぜ、<i>des maisons blanches</i> と言うのに、<i>de petites maisons</i> になるのか。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、授業への積極的参加姿勢、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

07 年度以前	フランス語史 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

07 年度以前	フランス文学史 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： フランス文学に親しむための下地をつくる 講義概要： Histoire de la littérature française（フランスの文学作品の歴史）に関しては、すぐれた教科書・参考書がいくつも存在します。いわゆる「フランス文学史」の知識としては、そちらを見ていただければいいでしょう。 この講義では、可能な限り「文学史」--- histoire littéraire---そのものに迫ってみたいと思います。 「フランス文学史」という科目名ですが、内容としてはフランスの枠をしばしば超えますので、ご承知置ください。		第 1 回目の授業で授業の進め方の説明、参考文献の紹介などをおこないます。 受講予定者は必ず出席してください。 講義内容としては、「まず「文学」とは何か」ということから始めます。自分なりに考えておいてください。 春学期は、主として文学のジャンル、特に物語・小説の成立について考察する予定です。	
参考文献		評価方法	
授業中に紹介します。		レポート	

07 年度以前	フランス文学史 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		第 1 回目の授業で授業の進め方の説明、参考文献の紹介などをおこないます。 特に秋学期からの受講者は必ず出席してください。 秋学期は、たとえば読者、書物など、「文学」をとりまく諸要素をとりあげたのち、「文学史」そのものを対象として考察をすすめていく予定です。	
参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

07 年度以前	フランス語学各論 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ フランス語を書いたり、話ししている、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業ではそのような欠落している部分をできるだけ補いたいと思います。プリントを使って説明した後、練習問題をやりながら、確実に使えるようになることを目指します。 授業の概要 1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、コミュニケーションに欠かせない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞、論理的な文を書くために不可欠なさまざまな表現を取りあげる。		第1回： ガイダンス 第2回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1 第3回：場所を表す前置詞 1 第4回：場所を表す前置詞 2 第5回：手段を表す前置詞 1 第6回：手段を表す前置詞 2 第7回：動詞＋前置詞 第8回：être ＋ 冠詞 第9回：一般的なことを表す冠詞 1 第10回：一般的なことを表す冠詞 2 第11回：部分冠詞 1 第12回：部分冠詞 2 第13回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		テスト	

07 年度以前	フランス語学各論 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ フランス語を書いたり、話ししている、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業ではそのような欠落している部分をできるだけ補いたいと思います。プリントを使って説明した後、練習問題をやりながら、確実に使えるようになることを目指します。 授業の概要 1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、コミュニケーションに欠かせない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞、論理的な文を書くために不可欠なさまざまな表現を取りあげる。		第1回： ガイダンス 第2回：理由を表す接続詞 第3回：理由を表す前置詞 1 第4回：理由を表す前置詞 2 第5回：理由を表す動詞 第6回：結果を表す接続詞 1 第7回：結果を表す接続詞 2 第8回：結果を表す副詞 第9回：譲歩を表す接続詞 第10回：譲歩を表す前置詞 第11回：譲歩を表す表現 第12回：目的を表す接続詞・前置詞 第13回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		テスト	

07 年度以前	フランス語学各論 a	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1—2 全般的なオリエンテーション 3—5 代名詞（1）：名詞と代名詞 6—8 代名詞（2）：人称代名詞と中性代名詞 9—11 代名詞（3）：代名詞と照応 12 代名詞（4）：先行詞の位置 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

07 年度以前	フランス語学各論 b	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1—4 構文（1）：非人称構文 5—7 構文（2）：使役構文 8—10 構文（3）：受動態構文 11—12 構文（4）：その他の構文 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

07 年度以前	フランス文学各論 a	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、19 世紀前半に活躍した小説家バルザックの生涯と作品について、映像を含む各種資料を使いながらお話しします。 バルザックは20 年にわたって書き続けた 91 篇の作品を『人間喜劇』という作品集にまとめました。その登場人物は1500 人、いくつもの作品に出てくる再登場人物が300 人います。彼は「戸籍簿と競争する」ようにしてフランス社会の縮図を描いたのです。 春学期は先ず彼がデビューした当時の出版事情から始め、当時複製芸術の新技术だった石版画とのかかわり、生涯を貫く2 大テーマであった美食と不倫などを扱ったのち、次第に作品解説へと移ります。 登録者は毎週簡単な小作文を提出し、個別のテーマを選んでフランス語のサイトを必ず参照したプレゼンテーションを作って発表します。		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介 2 パリと江戸の貸本屋 3 美味礼讃 4 人さまざま 5 結婚の生理学 6～7 パリのトポロジー 8 斧に触れるなかれ 9 ひとひらの花のように 11 国民軍と選挙 12 ざくろ屋敷 13 ガルグイユ	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
参考書：伊藤幸次著『バルザックとその時代』渡辺出版		評価方法：プレゼンテーションおよび平常点による	

07 年度以前	フランス文学各論 b	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。 秋学期は比較的晩年に近い長い作品を扱う予定です。できるだけ映像作品を参照します。		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 ピエレット 2～3 谷間の百合 4～5 二人の若妻の手記 6～7 幻滅 8～9 娼婦の栄枯盛衰 10 従兄ポンス 11～12 従妹ベット 13 アナルキア	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
同上		評価方法：同上	

07 年度以前	フランス文学各論 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
本年度のフランス文学各論では、フランス文学における自伝やエッセイ、自伝的フィクションを取り上げます。 一人の作家について 3～4 回を使い、最初に簡単な紹介、そのあと実際にフランス語のテキストの抜粋を読み、最後に文学的な問題やテキストの効果について考えます。 受講者がそれぞれの作家について一定のイメージを持てるようになることがこの講義の目的です。その中で個人的に共感する作家を見つけることができれば、なおよいでしょう。 初めの授業でアンケートを取るので、なるべく出席してください。		作家同士の影響関係や比較の面白さもあるので、順序などはあえて確定しませんが、以下のような作家の中から、参加者の希望や関心を考慮しつつ論じてゆく予定です。 ・モンテーニュ ・ルソー ・プルースト ・ジッド ・ブルトン ・レリス ・サルトル ・ボーヴォワール ・バタイユ ・ロラン・バルト ・クロード・シモン ・ナタリー・サロート ・セリヌ ・ジュネ ・ジョルジュ・ペレック	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布します。		出席とレポート。授業で扱った作家の中から一人を選んで論じてもらいます。	

07 年度以前	フランス文学各論 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期を参照のこと。		春学期を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布します。		出席とレポート。授業で扱った作家一人を選んで論じてもらいます。	

07 年度以前	フランス語学講読 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 外国語学習の基本の一つは語彙習得ですが、これは現代の外国語教育の中で最もなおざりにされている側面です。会話であれ講読であれ、初心者は早急に語彙力を高める必要があります。一般に、スムーズなコミュニケーションを行うためには、最低 5 0 0 0 語が必要と言われています。この授業ではできるだけこのレベルに近づくように語彙力を増やすことを目指します。 授業の概要 語彙習得の理論はいくつかありますが、必ずしも日本人に合っているわけではないので、この授業で自分に最も適した学習方法を見つけることも目指します。自分が興味のあるテキストを読みながら、あるいはインターネットを利用した学習を通して、いかに語彙力を高めるかを考えます。		第 1 回： ガイダンス 第 2 回：過去の語彙学習の経験と現在の問題点についてのディスカッション 第 3 回：語彙習得の理論について 第 4 回：インターネットを使った基本語彙の習得 1 第 5 回：インターネットを使った基本語彙の習得 2 第 6 回：テキスト講読・練習問題 1 第 7 回：テキスト講読・練習問題 2 第 8 回：派生語の問題 第 9 回：テキスト講読・練習問題 3 第 1 0 回：名詞化 第 1 1 回：テキスト講読・練習問題 4 第 1 2 回：テキスト講読・練習問題 5 第 1 3 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト テキストはこちらでも用意するが、読みたいものがあつたら自由に持ってきてよい。		テスト	

07 年度以前	フランス語学講読 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 外国語学習の基本の一つは語彙習得ですが、これは現代の外国語教育の中で最もなおざりにされている側面です。会話であれ講読であれ、初心者は早急に語彙力を高める必要があります。一般に、スムーズなコミュニケーションを行うためには、最低 5 0 0 0 語が必要と言われています。この授業ではできるだけこのレベルに近づくように語彙力を増やすことを目指します。 授業の概要 語彙習得の理論はいくつかありますが、必ずしも日本人に合っているわけではないので、この授業で自分に最も適した学習方法を見つけることも目指します。自分が興味のあるテキストを読みながら、あるいはインターネットを利用した学習を通して、いかに語彙力を高めるかを考えます。		第 1 回： ガイダンス 第 2 回：テキスト講読・練習問題 1 第 3 回：テキスト講読・練習問題 2 第 4 回：形容詞とその名詞化 1 第 5 回：形容詞とその名詞化 2 第 6 回：テキスト講読・練習問題 3 第 7 回：テキスト講読・練習問題 4 第 8 回：反意語 第 9 回：同意語 第 1 0 回：テキスト講読・練習問題 6 第 1 1 回：テキスト講読・練習問題 7 第 1 2 回：テキスト講読・練習問題 8 第 1 3 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト テキストはこちらでも用意するが、読みたいものがあつたら自由に持ってきてよい。		テスト	

07 年度以前	フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の 1～5 行程度の文章を丁寧に読んでいく（1 つの作品を 1 年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検 2 級程度、秋学期は仏検準 1 級程度の文章を扱う。 その他：全員予習は必須。毎回ランダムに指名して答えてもらう。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。欠席する場合には、訳文を指定時刻までにメール等で提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題、つまり授業中に扱った文章の丸暗記では全く点がとれない。初回の授業で 2 回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第 1 回目の授業に出席すること（2 回目から全員指名する。初回に出席できない場合には 1 週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。 単語テスト：3 回目以降の各授業の冒頭 5 分程度で実施。このテストの成績が悪くても評価には影響しないが、良ければ平常点に加点してプラス評価を付ける。		第 1 回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第 2 回以降：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。 なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。	

07 年度以前	フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

07 年度以前	フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では、フランス語教育の変遷に関する文献の講読を通して、フランス語教育および言語教育の一般的な言語教育の流れを学ぶことを目的とする。 <講義概要> 授業ではフランス語で書かれた「フランス語教育の変遷」に関する様々な文献を読み、内容理解とフランス語教育についての知識を習得していく。 毎週、各自が予習していることを前提に授業を行う。 厳密な訳をするのではなく、書かれていることについて内容を理解するように努めてほしい。		1. Introduction générale du FLE 1 2. Introduction générale du FLE 2 3. Introduction générale du FLE 3 4. Méthode traditionnelle 1 5. Méthode traditionnelle 2 6. Méthode traditionnelle 3 7. Méthode audio-visuelle 1 8. Méthode audio-visuelle 2 9. Méthode audio-visuelle 3 10. Approche communicative 1 11. Approche communicative 2 12. Approche communicative 3 13. Révision du 1^{er} semestre (順番は変更することがある。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、試験。	

07 年度以前	フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では、フランス語教育に関する文献の講読を通して、フランス語教育および言語教育の一般的な言語教育についての基礎知識習得を目的とする。 <講義概要> 授業ではフランス語で書かれた「フランス語教育」に関する様々な文献を読み、内容理解とフランス語教育についての知識を習得していく。 毎週、各自が予習していることを前提に授業を行う。 厳密な訳をするのではなく、書かれていることについて内容を理解するように努めてほしい。		1. Compétence de communication 1 2. Compétence de communication 2 3. Compétence de communication 3 4. Stratégies de communication 1 5. Stratégies de communication 2 6. Stratégies de communication 3 7. Stratégies d'apprentissage 1 8. Stratégies d'apprentissage 2 9. Stratégies d'apprentissage 3 10. Auto-apprentissage 1 11. Auto-apprentissage 2 12. Auto-apprentissage 3 13. Révision du 2^e semestre (順番は変更することがある。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、試験。	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre. Contenu : Nous lirons ensemble un texte de Daniel Pennac : <i>L'oeil du loup</i> . Ce sera pour nous l'occasion de parcourir l'Alaska, l'Afrique en compagnie de deux héros, un petit garçon et un loup, qui vont nous faire partager toute sorte d'aventures.		Lecture suivie du livre <i>L'oeil du loup</i> , une histoire choisie dans la littérature enfantine, celle d'un loup qui n'y voit que d'un oeil et d'un petit garçon à l'oeil fermé, qui tout en se regardant l'un l'autre se racontent leurs aventures, leurs joies, leurs malheurs. Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre. Contenu : Nous lirons ensemble un texte de Daniel Pennac : <i>L'oeil du loup</i> . Ce sera pour nous l'occasion de parcourir l'Alaska, l'Afrique en compagnie de deux héros, un petit garçon et un loup, qui vont nous faire partager toute sorte d'aventures.		Nous continuerons la lecture de <i>L'oeil du loup</i> commencée en avril. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus. Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Une partie du cours sera consacrée à un travail de groupe autour du livre qui aura été lu pendant les vacances. Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont priés de suivre le cours pendant le deuxième semestre. D'autre part, je ne souhaite pas avoir de nouveaux étudiants en septembre, car ils arriveront en plein milieu de la lecture du livre commencée en avril, ce qui ne présente aucun intérêt. Les étudiants qui souhaiteraient s'inscrire à ce cours en septembre doivent impérativement venir me voir début juillet.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopie Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
ヴィクトル・ユゴーの原作を 1998 年にミュージカルにした『ノートル・ダム・ド・パリ』をあつかいます。舞台は中世なのですが、3000 年期に入る現代のパリとフランスのさまざまな問題、とりわけ民族、差別、格差社会を重ね合わせています。授業では原作や映画版などを適宜参照しながら、ライブ録画版の映像とテキストを鑑賞します。 当たった学生はテキストの内容と韻律などを解説し、美しいフランス語で発音するよう努力します。他にカラオケ版を使って主要ナンバーを歌うか（教員は音痴なので歌わない）、出てきた言葉についてフランス語のサイトを参考にしてプレゼンテーションをつくります（教員はつくらない、でも時々つくる）。 ディズニーがこのミュージカルをアニメでリメイクしましたが、ひどく甘ったるいラヴ・コメディーになっています。ディズニー・ファンだったり、あの感動を今一度と思っている方は登録しないでください。 春学期は第一幕、秋学期は第二幕を主にあつかいます。		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介 2 カテドラルの時代 3 サン・パピエ 4 ボエミエヌ 5 愚者の祭典 6 愚者の教皇 7 魔女 8 奇跡の小道 9 アナルキア 10 美しい人よ 11 異教のアヴェ・マリア 12 愛の谷間 13 宿命	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
テキスト：プリント配布		テキストの解説と歌唱もしくはプレゼンテーションおよび平常点	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 フロランス 2 鐘 3 籠の鳥 4 審判と拷問 5 あの朝お前は踊っていた 6 解き放たれて 7 月 8 神よこの世は何と不正な 9 生きる 10 ノートル・ダムの攻撃 11 わが主人、わが救い主 12 踊れ、私のエスメラルダ 13 カテドラルの時代（ファイナル）	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
同上。		同上。	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
インターネットの時代に、もっとも必要とされる語学力は何でしょうか。それは第一に読む力、そして書く力です。会話では、目の前にいる人とはコミュニケーションすることができませんが、読む力があれば、「ここにいない人」と「好きなときに」コミュニケーションすることができます。「ここにいない人」には、地理的に遠い人だけでなく、絶対に会う機会が得られない人（すなわち死んだ人たち）も含まれます。受信できるメッセージの質と量において、読む力の開発は、話す力の開発よりも圧倒的にコストパフォーマンスが高いのです。さらに、読む力と並行して書く力を身につければ（実は書く力も読む力がベースです）、全世界の人を対象に発信することもできます。 それでは、読む力を身につけるための能率のよいやり方とはどのようなものでしょうか。それはまず第一に「名文を読む」こと、それになるべく「声に出して読む」ことです。「読書百遍意自ずから通ず」とまでは行かなくとも、音読によって名文のリズムを少しでも吸収することで、文章の意味の理解も速く容易になってきます。 この授業では、フランスの豊かな文学遺産の中から代表的な作品を選び、その抜粋を熟読玩味するとともに、作家の紹介、作品成立の時代背景などについても解説しますが、「声に出して読む」ことを重視する立場から、作品の朗読訓練にも力を注ぎます。各作品ごとに皆さんに前に出て朗読をしてもらいますから、そのつもりで受講してください。		春学期は 17 世紀の作家を取り上げます。扱う予定の作品は以下の通りで、それぞれ授業 2 回程度を割り当てます。 1 ラ・フォンテーヌ『カラスとキツネ』 2 パスカル『パンセ』 3 モリエール『町人貴族』 4 ラシーヌ『ブリタニキウス』 5 ラ・ファイエット夫人『クレヴの奥方』 なお、上記の内容は変更される場合もあります。第 1 回目の授業に必ず出席して、説明を聞いてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配付。 参考文献：『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2002 年。		学期末に定期試験を行います。平常点、出席点を加味して総合的に評価します。	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		秋学期は 19 世紀の作家を取り上げます。扱う予定の作品は以下の通りで、それぞれ授業 2 回程度を割り当てます。 1 スタンダール『赤と黒』 2 バルザック『ゴリオ爺さん』 3 フロベール『感情教育』 4 モーパッサン『ジュール叔父』 5 ゾラ『オ・ボヌール・デ・ダム百貨店』 なお、上記の内容は変更される場合もあります。第 1 回目の授業に必ず出席して、説明を聞いてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配付。 参考文献：『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2002 年。		学期末に定期試験を行います。平常点、出席点を加味して総合的に評価します。	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
アゴタ・クリストフの戯曲『ジョンとジョー』を読みます。中間の第 7 回には発表してもらいます。教室を少人数のグループに分けて授業をします。		第 1 回、ガイダンス、作業班の編成 第 2 回以降、作品を読む 第 7 回、発表（アゴタ・クリストフの戯曲について）	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		試験、平常点、出席状況で評価します。	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
アゴタ・クリストフの戯曲『道路』を読みます。最終回には発表をしてもらいます。教室を少人数のグループに分けて授業をします。		第 1 回、ガイダンス、作業班の編成 第 2 回～第 12 回、作品を読む 第 13 回、発表会	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		試験、平常点、出席状況で評価します。	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
本年度は、文学者による美術評論や、作家が画家との交流について語ったエッセイなどを読むことにします。 やさしいテキストばかりではありませんが、対象となっている絵画や彫刻を具体的にイメージすることができるので、アプローチしやすい部分もあるでしょう。 フランス語の文章がわからない時に、何がわからないのか、どこがわからないのかを考えるくせをつけ、わかるためにはどのような手づきをとればよいのかが実感できるような授業にしたいと思います。 授業は輪読によって進めますが、和訳の訓練のために宿題を出すこともあります。		1－4. ジュネによるジャコメッティ 5－7. レリスによるミロ 8－10. ソレルスによるフランシス・ベーコン 11－13. ヴァレリーによるドガ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配布します。		平常点と辞書持ち込み可の試験。	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
春期の続きとして、さらに四人の作家による画家論の抜粋を読む予定です。 いろいろなフランス語に触れ、それぞれの作家の文体や表現の特徴を知ることこの講義の目的です。		1－4. バタイユによるマネ 5－7. サルトルによるアンドレ・マッソン 8－10. ユイスマンスによるギュスターヴ・モロー 12－13. ボヌフォワによるモランディ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配布します。		平常点と辞書持ち込み可の試験。	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
1 9 世紀の小説家 Alexandre Dumas の怪奇幻想小説 <i>Les Mille et un fantômes</i> のうち数章を読む。(翻訳はない)。授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。 受講者制限をする可能性があるなので、履修を希望する学生は必ず 1 回目の授業に出席すること。 仏和辞書についての注意：学習者用の辞書 (Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど)、電子辞書では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典 (大修館書店) やロワイヤル仏和中辞典 (旺文社) などの中辞典が必要である。		1 回目：授業の概要の説明。作者紹介。人数過多の場合は簡単なテストで制限を行なう。 2 回目以降：講読。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Dumas, <i>Les Mille et Un Fantômes</i> , Gallimard, Folio Classique.		定期試験および平常点 (出席および予習の程度)。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、出席・試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。(春学期を履修していることが望ましい)。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	根本 祐徳
講義目的、講義概要		授業計画	
19 世紀の小説家 Guy de Maupassant の短編小説集 (contes)–Mon oncle Jules, En voyage, les bijoux etc.–を読む。 授業は毎回、4 ～ 5 人の学生に訳を担当して貰う。その後、初級・中級の文法的な説明および語彙の解釈を加える。 正確に仏文を理解するためには、全員の予習は必須である。 受講者の制限をすることがあるので、履修希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。		Mon oncle Jules から始める予定であるが、1 回目は授業の進め方について話をする。 履修希望者が多い場合は簡単なテストで制限を行う。 2 回目以降は講読。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Guy de Maupassant, <i>Mon oncle Jules</i> 第三書房		授業への参加度（出席および訳の担当回数など）と定期試験に拠る。	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	根本 祐徳
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続きをやることになる。 短編集なので秋学期からでも履修は可能であろうが、春学期から続けることが望ましい。		1 回目から講読。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Guy de Maupassant, <i>Mon oncle Jules</i> 第三書房 および Maupassant の他の作品のコピー		授業への参加度（出席および訳の担当回数など）と定期試験に拠る。	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
Eugène Ionesco : <i>La Leçon</i> をテキストとしてドラマ・リーディングをおこないます。 テキストの理解・解釈とともにドラマ・リーディングに不可欠な、発音・発声の指導・トレーニングにも力を入れます。		第 1 回目の授業で授業の進め方などを説明します。受講予定者は必ず出席してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Eugène Ionesco : <i>La Leçon</i> 駿河台出版社		ドラマ・リーディングの実技試験 (授業時間中に行います。)	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照 <i>La Leçon</i> を終えたら、同じ作者の <i>La Cantatrice chauve</i> の抜粋をテキストとしてもちいます。		第 1 回目の授業で授業の進め方などを説明します。特に秋学期からの受講者は必ず出席してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門 I フランス文化社会概論 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 現代のフランスに関する基礎知識を、言語、歴史、生活、社会問題に関する項目から概観することによって習得することを目標とする。「フランス現代社会コース」の専門科目への導入とする。 講義概要 複数の担当者が各々の項目について2～3コマの割合で授業を受け持つ。様々なテーマが扱われるが、フランスについての興味や問題意識を早くから持ってもらえるよう一年生向けの入門内容になっている。 フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目となっていますので、授業はフランス語学科生対象として行います。」		第1回(4/9)：ガイダンス フランス語と世界1 (田中善英) 第2回(4/16)：フランス語と世界2 (田中善英) 第3回(4/23)：フランス語と世界3 (田中善英) 第4回(4/30)：フランスの歴史1 (藤田朋久) 第5回(5/14)：フランスの歴史2 (藤田朋久) 第6回(5/21)：フランスの歴史3 (藤田朋久) 第7回(5/28)：フランスでの生活1 (中村公子) 第8回(6/4)：フランスでの生活2 (中村公子) 第9回(6/11)：フランスでの生活3 (中村公子) 第10回(6/18)：フランスの地理 (小石悟) 第11回(6/25)：フランス社会の諸問題1 (小石悟) 第12回(7/2)：フランス社会の諸問題2 (小石悟) 第13回(7/9)：まとめ (中村公子)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリント。 参考文献は各教員から授業中に指示される。		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門 II フランス文化社会概論 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 現代のフランスに関する基礎知識を、フランスの首都、教育、宗教、政治経済に関する項目から概観することによって習得することを目標とする。「フランス現代社会コース」の専門科目への導入とする。 講義概要 複数の担当者が各々の項目について2～3コマの割合で授業を受け持つ。様々なテーマが扱われるが、フランスについての興味や問題意識を早くから持ってもらえるよう一年生向けの入門内容になっている。 フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目となっていますので、授業はフランス語学科生対象として行います。」		第1回(9/24)：パリ1 (横地卓哉) 第2回(10/1)：パリ2 (横地卓哉) 第3回(10/8)：パリ3 (横地卓哉) 第4回(10/15)：フランスの教育1 (中村公子) 第5回(10/22)：フランスの教育2 (中村公子) 第6回(10/29)：フランスの教育3 (中村公子) 第7回(11/5)：キリスト教と聖書 (前川久美子) 第8回(11/12)：美術館へ行こう (前川久美子) 第9回(11/19)：フランスの世界遺産 (前川久美子) 第10回(11/26)：フランスの政治経済1 (廣田愛理) 第11回(12/3)：フランスの政治経済2 (廣田愛理) 第12回(12/10)：フランスの政治経済3 (廣田愛理) 第13回(12/17)：まとめ (中村公子)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリント。 参考文献は各教員から授業中に指示される。		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

07 年度以前	(春) フランス事情	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>But</u> : Rechercher des informations de base sur la France et la francophonie, principalement par l'intermédiaire de l'internet. <u>Méthode</u> : Travail en groupe ; petits exposés ; une série de questions sera posée sur le thème discuté et le groupe cherchera à répondre le plus exactement possible en citant ses sources. <u>Langues</u> : français et japonais		1. Comment surfer sur l'internet en français ? 2-8. La France : Cadre géographique et climatique Moyens d'information Données économiques Données sociales Données politiques Questions particulières selon les souhaits des étudiants. 9-13 La francophonie Qu'est-ce que c'est ? Les pays francophones Langue et cultures	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント、インターネット		小テストとレポート	

07 年度以前	(秋) フランス事情	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
テレビ・新聞・インターネットでフランスに関するニュースを見・聞きますが、それらのニュースを理解するためには、最低限の「フランスという国についての常識」と「フランス人の常識」が必要です。この授業では、政治・経済・社会等と分けるのではなく（全て密接に関係している）現在問題になっている事柄を取り上げながら、フランスに行ったときに恥ずかしくない程度の常識を身につけることを目指したいと思います。 学期末に、各自興味を持てた（あるいは持っている）テーマについてレポートを作成する。		次のようなテーマを取り扱う予定です。 2007 年大統領選挙とその後のフランス政治 移民問題、ONG、年金、失業問題、女性の労働と出生率、Pacs, etc. - 教育、文化、マスメディア - フランス人の日常生活 バカンス、料理、ワイン、etc (これ以外に取り上げて欲しいテーマがあれば歓迎します。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験（50 点）とレポート（50 点）	

07 年度以前	フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ＊フランス史の基礎知識を習得する。 ＊フランス社会の歴史的な特質を理解する。 講義概要： フランス史の概説講義です。春学期は、古代から近代までの通史的な概観を行います。 参考文献： ・柴田三千雄「フランス史 10 講」岩波新書。 ・福井憲彦編「フランス史」（新版世界各国史 12）山川出版社。その他の文献は教室で指示する。		1. イン트로ダクション 2. 古代・中世（1） 3. 古代・中世（2） 4. 古代・中世（3） 5. アンシアン・レジーム（1） 6. アンシアン・レジーム（2） 7. アンシアン・レジーム（3） 8. フランス革命 9. 近代（1） 10. 近代（2） 11. 近代（3） 12. 近代（4） 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布。		平常点、試験、など。	

07 年度以前	フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ＊フランス史の基礎知識を習得する。 ＊フランス社会の歴史的な特質を理解する。 講義概要： フランス史の概説講義です。秋学期は、個別テーマを取り上げ、それぞれ 3 回の授業で解説する予定です。 参考文献： ・柴田三千雄「フランス史 10 講」岩波新書。 ・福井憲彦編「フランス史」（新版世界各国史 12）山川出版社。その他の文献は教室で指示する。		1. イン트로ダクション 2. テーマⅠ（1） 3. テーマⅠ（2） 4. テーマⅠ（3） 5. テーマⅡ（1） 6. テーマⅡ（2） 7. テーマⅡ（3） 8. テーマⅢ（1） 9. テーマⅢ（2） 10. テーマⅢ（3） 11. テーマⅣ（1） 12. テーマⅣ（2） 13. テーマⅣ（3）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布。		平常点、試験、など。	

07 年度以前	フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではフロイト、ニーチェ、ハイデガーなど 20 世紀の思想家の作品(抜粋)を読むことで、ヨーロッパ的思考とはどのようなものなのかを考えていきます。普通私たちはものを考えることは当たり前と考えていますが、はたしてそうでしょうか。誰もが当たり前と思っていることをもう一度振り返る必要があるのではないのでしょうか。この講義で取り上げる思想家たちは物事をラディカルに掘下げ、これまでとは全く異なる、新たな物の見方を提案した人々です。彼らの言葉に触れ、彼らと対話し、自分自身を振り返ることがこの講義の目的です。		次のようなテーマを扱う予定です。 1) 現代思想の原点としてのニーチェ 2) フロイトの精神分析理論とその展開。ジャック・ラカンおよびその他の分析家 3) ハイデガーの『存在と時間』を読む 4) 後期ハイデガーの諸問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。参考文献等は授業の際に指示する。		レポートおよび平常点	

07 年度以前	フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の講義を前提にして、秋学期は現代フランスの思想、とりわけモーリス・ブランショとジャック・デリダを中心に扱います。彼らのテキストを原文で読み、現代ヨーロッパのもっとも先鋭な文学、思想に触れていただきたいと思います。 具体的にはデリダのカフカ論、ブランショの「文学空間」や「災厄のエクリチュール」などを扱います。 文学と思想が交錯する授業になると思います。		次のようなテーマを扱う予定 1) デリダにおける écriture と différence 2) カフカの「法の前 devant la loi」の読解 3) ブランショの「文学空間」。とくに Le regard d'Orphée をめぐって 4) ブランショの後期作品 5) 来るべき民主主義(la démocratie à venir)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。参考文献については授業の際に指示する。		レポートおよび平常点	

07 年度以前	フランスの美術 a	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスというよりはヨーロッパ全体を視野に入れ、西洋美術史における比較的限定された一つの問題を追及します。 一方的な「講義」ではなく、聴講者が積極的に考え、発表、議論してゆきます。毎回必ず予習して、積極的に授業に参加してください。 第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります)。 この授業では年度を通して(同一年度の春・秋学期)同じテーマを扱い、テーマは毎年度変わります。重複受講は歓迎しますが、一学期のみの受講(とくに同一年度の春学期を聴講せずに秋学期のみを受講すること)はご遠慮ください。		1 イントロダクション 2~13 文献講読、関連事項についての発表など	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は未定。 参考文献は授業中に指示します。		テストと平常点(課題への取り組みと成果および発言などの授業への貢献)による。	

07 年度以前	フランスの美術 b	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

07 年度以前	フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
時代や国民性の違いによって音楽表現がどう変わるかを実感し、自国を、そして自分を知りきっかけにすること。対象はクラシック音楽である。 19 世紀後半に起こった時代思潮と関連させて同時代の音楽を見ていく。フランスを中心にドイツ、スペイン、東洋、ロシアの音楽も採りあげていく。できるだけ音楽を聴き、楽譜や映像なども活用する。		1. ロマン主義音楽の主観性 [1] 2. ロマン主義音楽の主観性 [2] 3. ショパンからフォーレへ 4. 印象主義絵画の客観性とドビュッシー 5. ラヴェルの古典性 [1] 6. ラヴェルの古典性 [2] 7. 【中間試験】 新たな語法としての旋法 8. メテルラーンクの象徴主義とドビュッシー 9. エグゾティスム [1]：スペイン民族音楽と東洋 10. エグゾティスム [2]：ジャズ 11. 調性の解体：シェーンベルクの 12 音音楽 12. 20 世紀ロシアのバーバリズム：ストラヴィンスキー 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は授業中に紹介する。		出席と 2 回の試験による（各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない）。	

07 年度以前	フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
時代や国民性の違いによって音楽表現がどう変わるかを実感し、自国を、そして自分を知りきっかけにすること。対象はクラシック音楽である。 20 世紀初頭からの代表的なフランスの作曲家、フランスとアメリカのミュージカルの比較、バレエ、そして 20 世紀の音楽思想の展開もみる。できるだけ音楽を聴き、とくに後半は映像を活用する。		1. エキセントリックなサティ 2. コクトーとフランス六人組 3. フランス六人組 [1]：ミヨーの多彩な響き 4. フランス六人組 [2]：オネゲルの明確さ 5. フランス六人組 [3]：プーランクの洒脱 6. アメリカからの風：ガーシュイン 7. 【中間試験】 メシアンの信仰と色彩と鳥の声 [1] 8. メシアンの信仰と色彩と鳥の声 [2] 9. ミュージカル [1] 10. ミュージカル [2] 11. ベジャールの《ボレロ》 12. 音楽における偶然性：ジョン・ケージ 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は授業中に紹介する。		出席と 2 回の試験による（各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない）。	

07 年度以前	フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
昨年度は 18 世紀の作品を取り上げましたが、今年度は、「19 世紀フランス演劇の諸相」というテーマで講義を行います。 春学期は、19 世紀中葉の第二帝政期にその絶頂を迎える「オペラ・コミック」の歴史をたどり、特にジャック・オフエンバックの作品に焦点を当てて分析を行います。 授業では、作品の理解を助けるため、DVD やビデオなども活用する予定ですが、字幕は原則としてありません。 受講者には、随時自分の頭で考えることを求めますので、受動的な態度の受講者は歓迎されません。評価は大変厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。		春学期は主に次の内容を扱う。 1 18 世紀におけるオペラ・コミックの誕生と発展 2 19 世紀前半におけるフランスの演劇状況と時代背景 3 ジャック・オフエンバックの紹介 4 作品分析 (1) - オフエンバック『ペリコール』 5 作品分析 (2) - オフエンバック『地獄のオルフェ』 なお、上記の内容は変更される場合もあります。一応の目安程度に考えてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		学期末の定期試験による評価。ただし、原則として 3 分の 2 以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

07 年度以前	フランスの演劇 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、19 世紀における「ロマン主義演劇」に焦点を当てて講義を行います。		秋学期は主に次の内容を扱う。 1 「ロマン主義」とは何か 2 ミュッセとロマン主義 3 作品分析 - ミュッセ『何事も誓うなかれ』 4 遅れてきたロマン主義者ロスタン 5 作品分析 - ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』 なお、上記の内容は変更される場合もあります。一応の目安程度に考えてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		学期末の定期試験による評価。ただし、原則として 3 分の 2 以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

07 年度以前	フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムの特徴について学ぶことも有益であろう。本講義は、フランス政治についての基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、現在のフランスの政治システムが形成された歴史的背景を概観した上で、現状の政治制度について学ぶ。		1. ガイダンス 2~4. 歴史：第 4 共和制 5~7. 歴史：第 5 共和制 8~12. フランスの政治システム 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点及び試験	

07 年度以前	フランスの政治 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスは、ヨーロッパ統合の開始当初から今日まで、統合において常に重要な役割を担ってきた。また、統合の進展とともに、フランスの対ヨーロッパ政策は国内の政策との関わりを一層強めているのが現状である。本講義では、戦後から今日に至るまで、ヨーロッパ統合という問題にフランスがどのように対応してきたかを、同時代資料を交えつつ、政治的観点から概観する。		1. ガイダンス 2. 第 4 共和制期 3~4. ドゴール時代 5~6. ポンピドゥー時代 7~8. ジスカールデスタン時代 9~10. ミッテラン時代 11~12. シラク時代 13. 現在	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点及び試験	

07 年度以前	フランスの経済 a	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> とくにフランス経済の経済発展と工業化の歴史を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。 <u>講義概要</u> フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を形成する、主に 18 世紀以後第二次大戦前までのフランス経済発展史について講義する。		1. 講義に関する一般的注意 2. 簡単な経済用語の基礎知識 3. 現代フランス経済概観 4. 経済発展と工業化についての基礎知識 5. フランス革命以前のフランス経済 6. フランス革命とフランス産業革命 7. フランス産業革命概観 8. フランスの農業と産業革命 9. フランスの工業化と人口問題 10. フランスの天然資源問題と工業化 11. フランスの保護主義と植民地経営 12. フランスの金融制度の発展と工業化 13. フランス工業化の社会的諸条件	
テキスト、参考文献		評価方法	
パワーポイントを使用して講義する。参考文献：服部春彦、谷川稔編著『フランス近代史』（ミネルヴァ書房、1993）		定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。	

07 年度以前	フランスの経済 b	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> フランス経済の第 2 次大戦後の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。 <u>講義概要</u> 第二次世界大戦後のフランス経済の成長と変遷を、経済計画・国有化政策・民営化などの流れに沿って説明する。		1. 戦後フランスの経済：基礎経済統計 2. 戦後フランスの政治・経済概観① 3. 戦後フランスの政治・経済概観② 4. フランスの経済計画と国有化政策 5. EEC 発足とフランス経済の開放化 6. ドゴール＝ポンピドゥー時代の経済政策 7. ジスカールデスタンとバール・プラン 8. ミッテラン時代の経済と経済政策① 9. ミッテラン時代の経済と経済政策② 10. ミッテラン時代の経済と経済政策③ 11. シラク時代の経済と経済政策① 12. シラク時代の経済と経済政策② 13. フランス経済の現状とサルコジ大統領の経済政策	
テキスト、参考文献		評価方法	
統計資料などを随時に配布する。 パワーポイントを使用して講義する。 参考文献：渡邊啓貴著『フランス現代史』（中公新書、1998）		定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。	

07 年度以前	フランス文化・社会各論 a	担当者	井上 たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
1970 年代から現代に至るフランス社会の変化を女性の視点から考察する。フランス女性の現状を学ぶことで、それが女性だけの特殊な問題ではなく、男性との関係の問題であることを理解し、ひいては、フランス社会全体の現状についての理解を深め、変化の方向を考えることを目指している。 教員からの一方的な講義でなく、提供資料（ペーパー、インターネット、ビデオなど）を活用して、学生が自ら考え、ディスカッションできるように指導する。		詳しくは初回の授業で説明するが、春学期は「フランスの女性政策推進機構」、「家族の多様化と複合化」、「男女職業平等の深化」、「社会保障制度の進展」などの章を中心に扱う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：植野妙実子・林瑞枝編著『ジェンダーの地平』（中央大学出版部。2007） 他に、参考資料を配布する。		ディスカッションへの参加度と期末のレポートで評価する。	

07 年度以前	フランス文化・社会各論 b	担当者	井上 たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
1970 年代から現代に至るフランス社会の変化を女性の視点から考察する。フランス女性の現状を学ぶことで、それが女性だけの特殊な問題ではなく、男性との関係の問題であることを理解し、ひいては、フランス社会全体の現状についての理解を深め、変化の方向を考えることを目指している。 教員からの一方的な講義でなく、提供資料（ペーパー、インターネット、ビデオなど）を活用して、学生が自ら考え、ディスカッションやレポート発表などを通してその考えを表現できるように指導する。		春学期に扱えなかった章について学ぶが、具体的には、初回の授業で、学生の希望も考慮して決定する。従って、出来るかぎり、春・秋連続して履修することが望ましい。（人数などの関係から、秋学期のみの履修は、受け付けられない可能性もあります。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：植野妙実子・林瑞枝編著『ジェンダーの地平』（中央大学出版部。2007） 他に、参考資料を配布する。		ディスカッションへの参加度とレポート発表で評価する。	

07 年度以前	フランス文化・社会各論 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は現代フランス社会の特徴を様々な角度から考察することにより、フランスに対する理解を深めることにある。 春学期は『フランス 7 つの謎』をテキストに使用する。本書は〈政教分離〉、〈移民問題〉、〈ストライキ〉、〈対米政策〉など、フランス社会における重要なテーマを扱っている。これらのキーワードを手掛かりにして、その他参考文献や DVD 教材などを併用しながら、フランス社会について考察・議論して行きたい。		1. ガイダンス 2~4. 現代フランスの社会（講義） 5~12. テキスト・参考文献をもとにした議論 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
小田中直樹『フランス 7 つの謎』文春新書、2005 年		平常点及びレポート	

07 年度以前	フランス文化・社会各論 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期のテーマは主として今日におけるフランス社会の問題点をクローズアップしているが、秋学期は、われわれがイメージするフランスの華やかな側面に歴史的観点からスポットを当てる。主としてフランスの首都パリにまつわるテーマを取り上げることで、現在のパリの街がつけられた背景を探って行く。		1. ガイダンス 2~4. 都市改造 5~6. パリの公共交通 7~9. デパートと消費社会 10~12. 奢侈品産業 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点及びレポート	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est de permettre à ses participants de mieux connaître les réalités de la culture et de la société françaises d'aujourd'hui, tout en améliorant leurs compétences en français (notamment en compréhension écrite). Contenu de chaque cours : 1) Lecture et explication de textes (textes « authentiques » ou textes destinés à l'enseignement de la culture et de la civilisation) 2) Discussion. La liste ci-contre est une liste de « thèmes ». On étudiera chaque semaine un ou plusieurs textes en rapport avec le thème annoncé. Ces thèmes sont les mêmes pour les deux semestres, mais les sujets et les textes étudiés seront différents. Les textes seront distribués au moins une semaine à l'avance. Une assiduité parfaite est requise.		1. Géographie de la France 2. Histoire de France 3. Population de la France 4. Le couple, la famille 5. Les jeunes aujourd'hui 6. L'école hier et aujourd'hui 7. Le travail 8. Les vacances, les loisirs 9. Questions de société de la France d'aujourd'hui 10. Questions politiques de la France d'aujourd'hui 11. Les croyances, la laïcité 12. La littérature contemporaine 13. La francophonie	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Francoscopie 2007』, Gérard Mermet, Larousse, 2006 『Civilisation progressive du français』, Ross Steele, Cle International, 2002 (achat non nécessaire)		Contrôle continu : le travail de préparation (à la maison) et la participation en classe seront l'objet d'une <u>appréciation hebdomadaire</u>, qui servira de base au calcul de la note finale.	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est de permettre à ses participants de mieux connaître les réalités de la culture et de la société françaises d'aujourd'hui, tout en améliorant leurs compétences en français (notamment en compréhension écrite). Contenu de chaque cours : 1) Lecture et explication de textes (textes « authentiques » ou textes destinés à l'enseignement de la culture et de la civilisation) 2) Discussion. La liste ci-contre est une liste de « thèmes ». On étudiera chaque semaine un ou plusieurs textes en rapport avec le thème annoncé. Ces thèmes sont les mêmes pour les deux semestres, mais les sujets et les textes étudiés seront différents. Les textes seront distribués au moins une semaine à l'avance. Une assiduité parfaite est requise		1. Géographie de la France 2. Histoire de France 3. Population de la France 4. Le couple, la famille 5. Les jeunes aujourd'hui 6. L'école hier et aujourd'hui 7. Le travail 8. Les vacances, les loisirs 9. Questions de société de la France d'aujourd'hui 10. Questions politiques de la France d'aujourd'hui 11. Les croyances, la laïcité 12. La littérature contemporaine 13. La francophonie	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Francoscopie 2007』, Gérard Mermet, Larousse, 2006 『Civilisation progressive du français』, Ross Steele, Cle International, 2002 (achat non nécessaire)		Contrôle continu : le travail de préparation (à la maison) et la participation en classe seront l'objet d'une <u>appréciation hebdomadaire</u>, qui servira de base au calcul de la note finale.	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>But du cours</u> : Pouvoir lire et comprendre des textes à contenu politique, sociologique ou économique. <u>Contenu</u> : Au début, lecture d'articles destinés aux enfants, collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport à la France et aux relations internationales (Europe, francophonie, ONG, etc.). Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels. <u>Méthode</u> : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte. <u>Pas de traduction.</u>		1 Articles tirés de journaux pour enfants. 6 Petit test de vocabulaire 13 Examen semestriel	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2008.		Petit test de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes.	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir le premier semestre. Dans toute la mesure du possible, nous abordons au 2e semestre des articles des journaux habituels.		1 Articles tirés de journaux pour lycéens 2 3 4 5 6 Petit test de vocabulaire (facultatif) 7 8 9 Articles tirés de journaux courants 10 11 12 13	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2008.		examen semestriel ou rapport : lecture à haute voix, vocabulaire, grammaire, compréhension des textes.	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	井上 たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
2～3 週で読み終わられるくらいの長さの、現代のフランス女性に関するテキストを読む。 フランス語の知識の確認と同時に、テキストを通して現代フランス社会について学ぶ。		初回の授業で説明する。必ず出席して、内容を確認してから選択すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配付		平常の小テストと授業への参加度で評価する	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	井上 たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
2～3 週で読み終わられるくらいの長さの、現代のフランス女性に関するテキストを読む。 フランス語の知識の確認と同時に、テキストを通して現代フランス社会について学ぶ。		初回の授業で説明する。必ず出席して、内容を確認してから選択すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配付		平常の小テストと授業への参加度で評価する	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
今日の世界を概観するならば、グローバリゼーションの広汎な展開や、各国の政治・経済の相互依存関係の強化が確認される。さらに、グローバリゼーションという現象は、政府や企業の活動のみならず、われわれの日常生活をも大きく左右する問題となってきた。 本講義では、フランス語のテキストを通して、グローバリゼーションという世界的な流れの中で、フランス社会においてどのような反応が生じているかについて学ぶ。		春学期は、グローバリゼーションに対するフランス国民の不安に関するテキストを読み進める。以下に講読予定のテキストのテーマを挙げておく。 ・ グローバリゼーションに対する最初の抵抗－1995 年のストライキ ・ マクドナルドの「解体」 ・ 企業移転・失業の不安 ・ EU とグローバリゼーション (1) 欧州憲法条約の批准否決 (2) 「ポーランドの配管工」の脅威 ・ フランスの世論の特徴	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点（出席と授業中の発表）	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様にグローバリゼーションの問題を扱うが、秋学期からの履修も可能である。		秋学期は、主としてフランスの政党・圧力団体のグローバリゼーションに対する考え方に関するテキストを講読する。以下のようなテーマを予定している。 ・ 反グローバリゼーション ・ Altermondialisme－「もうひとつのグローバリゼーション」の追求 ・ 親グローバリゼーション ・ グローバリゼーションの改良 (1) シラクの考え、(2) ジョスパンの考え ・ 他国から見たフランスの反応 ・ フランスの社会モデルの危機	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点（出席と授業中の発表）	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： * フランス語の読解力を高める。 * 社会に対する批判的思考と想像力を養う。 講義概要： フランスの人類学者クロード・レヴィ＝ストロースの著作を読みます。春学期は、1930 年代に著者がブラジル奥地で行ったフィールドワークを回想して書かれた「悲しき熱帯」を原文で読みます。またあわせて著者が当時現地で撮影したフィルムなども見る予定です。 Claude Lévi-Strauss, <i>Tristes Tropiques</i>, Paris, 1955.		授業の進め方については、第 1 回目に説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、試験、など。	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： * フランス語の読解力を高める。 * 社会に対する批判的思考と想像力を養う。 講義概要： フランスの人類学者クロード・レヴィ＝ストロースの著作を読みます。秋学期は、ルイス・フロイスの「ヨーロッパ文化と日本文化」のフランス語版に寄せた序文や、インタビュー記事などを読む予定です。		授業の進め方については、第 1 回目に説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、試験、など。	

07 年度以前	フランス社会・文化講読 a	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
美術作品について書いたフランス語のテキストを読みます。 文法事項を復習しながら、たんねんに辞書を引き、文章の構造を把握したうえで、訳文を書いて授業にのぞんでください。 第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります)。		1~13 訳読など	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配ります。		テストに平常点を加味します。	

07 年度以前	フランス社会・文化講読 b	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

07 年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座では歌（chansons）を通して現代フランスについての知識を深めていきます。具体的には毎回違った歌を取り上げ、その歌をフランス語で理解し、その背景にある事柄について考えるという手順を取ります。取り上げる歌は昔のものより現代のものとし、日本ではあまり知られていないが、(少なくとも私の考えでは)非常に興味深く、私たちの心を打つ作品を選ぶつもりです。DVD など使います。 また、フランス語を本当に話せるようになるためには歌はとてもよい手段なので、そういう観点からも歌を取り上げています。		参加型の授業で、当たった人には歌の内容、背景、歌手についての情報などを調べてもらいます。フランス語の細かいニュアンスにも注意を払って、歌が伝えたいことを正確に理解することが求められます。 またこの授業は文字ではなく音としてフランス語を理解することを目標としています。発音や、歌詞のシラブルの数え方、読み方などにも気をつけます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		期末試験および平常点	

07 年度以前	フランス文化社会・講読 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座では歌（chansons）を通して現代フランスの知識を深めていきます。具体的には毎回違った歌を取り上げ、その歌をフランス語で理解し、その背景にある事柄について考えるという手順を取ります。取り上げる歌は昔のものより現代のものとし、日本ではあまり知られていないが、(少なくとも私の考えでは)非常に興味深く、私たちの心を打つ作品を選ぶつもりです。DVD など使います。 また、フランス語を本当に話せるようになるためには歌はとてもよい手段なので、そういう観点からも歌を取り上げています。		参加型の授業で、当たった人には歌の内容、背景、歌手についての情報などを調べてもらいます。フランス語の細かいニュアンスにも注意を払って、歌が伝えたいことを正確に理解することが求められます。 またこの授業は文字ではなく音としてフランス語を理解することを目標としています。発音や、歌詞のシラブルの数え方、読み方などにも気をつけます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		期末試験および平常点	

2008年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学用)

03 年度以降（春）	総合講座（移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 I）	担当者	コーディネーター：若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？ 彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい、独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？ この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接係わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。		1) グローバリゼーションと人の移動（廣田） 2) 外国人児童への NPO 支援活動——草加市の経験から——（築瀬〔草加市国際相談センター〕） 3) ビルマ人の語る日本での生活（チンカン〔ビルマ市民フォーラム〕） 4) 日本で生活している移住労働者の現状と問題点（鳥井〔移住労働者と連帯する全国ネットワーク〕） 5) ヨーロッパ連合（EU）と移民問題（廣田） 6) 移民社会オーストラリア（竹田） 7) アジア諸国からの移民と出稼ぎ労働者（金子） 8) ドイツにおける移民の歴史と現在（増谷） 9) 移民はどこから来たか（フランスの場合）（井上） 10) 移民、難民、人身取引に関する国際機関の活動（橋本〔国際移住機関〕） 11) 教科書のなかの移民、難民、移住労働者（黒田） 12) アフリカの「国家」再考——破綻国家と紛争（佐野） 13) ドイツの亡命知識人——ベンヤミンとフランクフルト学派（工藤） なおこのプログラムは細部で変更されることがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の際、指示する。		1) 毎回授業の終り 10 分を使って講義のまとめを書き、提出する（40%）。 2) マークシート方式の学期末試験を行う（60%）。	

03 年度以降（秋）	総合講座（移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 II）	担当者	コーディネーター：若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？ 彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？ この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接係わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。		1) 移民国家アメリカの歴史と現状（高橋） 2) 合衆国市民をパフォーマンスする（高橋） 3) フランス・サルコジ政権の移民政策（井上スズ） 4) アフリカ難民はなぜ生まれるのか——国際協力の視点から（JICA 米崎） 5) 「アフリカの角」地域の難民・国内避難民（佐野） 6) とんりの難民と私たち——日本での難民支援の現場から（伴〔難民支援協会〕） 7) EU 拡大とドイツ労働市場（大重） 8) ドイツ移民としてのトルコ人の生活の実際（飯嶋） 9) 外国における母語の意識（岡村） 10) 移民と文学——アゴタ・クリストフの場合（若森） 11) オーストリアにおける移民の歴史と現状（古田） 12) Global woman——移民の女性化（上野） 13) もうひとつの「グローバリゼーション」（若森） なおこの授業計画は細部で変更されることがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の際、指示する。		1) 毎回授業の終り 10 分を使って講義のまとめを書き提出する（40%）。 2) マークシート方式の期末試験を行う（60%）。	

03 年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用などの理解を深めます。		1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11 機械翻訳システムの演習 12 インターネット上の多言語処理技術 13 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03 年度以降（春）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。 注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。		1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 OS の基礎—OS の目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 ネットワークシステム 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・情報検索 6 情報倫理と情報セキュリティ 7 文書の作成 1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成 2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成 3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 パソコンの基礎知識 12 情報技術の応用 13 総合演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用 I』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。 注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。		1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 OS の基礎—OS の目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 コンピュータ・ネットワーク 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・検索 6 情報倫理とセキュリティ 7 文書の作成 1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成 2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成 3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 パソコンの基礎知識 12 情報技術の応用 13 総合演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用 I』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03 年度以降（春）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。		1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（１） 6 関数の利用（２） 7 関数の利用（３） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成１－スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成２－アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表１ 12 プレゼンテーション発表２ 13 総合演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。		1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（１） 6 関数の利用（２） 7 関数の利用（３） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成１－スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成２－アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表１ 12 プレゼンテーション発表２ 13 総合演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降（春）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」 「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、指定されたテーマに従って書籍やインターネット等を用いて情報収集を行い、またプレゼンテーションソフトを使って発表用のスライドを作成する。同時に、ワープロで発表原稿も作成する。その後、実際に発表を行い（聞き手も含む）、プレゼンテーションの経験と技術を積み、ゼミなどの発表で、就職の面接で、そして社会に出てから役立つコミュニケーション技術を習得することを目指す。 受講上の注意： <u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 プレゼンテーションとは 3 プレゼンテーションソフトの基本操作 4 課題 1 5 発表（1－1） 6 発表（1－2） 7 課題 2 8 発表（2－1） 9 発表（2－2） 10 課題 3 11 発表（3－1） 12 発表（3－2） 13 まとめ（プレゼンテーションの反省）	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と発表（聞き手も含む）で総合評価する。 出席と参加状況は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
（春学期同様）		（春学期同様）	
テキスト、参考文献		評価方法	
（春学期同様）		（春学期同様）	

03 年度以降（春）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。		1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。		1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降（春）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。 ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に 2 回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. 第 1 回プレゼンテーション 8. 第 1 回目プレゼンテーションの評価 9. 個人プレゼンテーションへの準備 10. 個人プレゼンテーションへの準備 11. 個人プレゼンテーション 12. 個人プレゼンテーション 13. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。 ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に 2 回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. 第 1 回プレゼンテーション 8. 第 1 回目プレゼンテーションの評価 9. 個人プレゼンテーションへの準備 10. 個人プレゼンテーションへの準備 11. 個人プレゼンテーション 12. 個人プレゼンテーション 13. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降（春）	情報科学各論（中級一万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。 Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思います。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。		1. ガイダンスと Excel の概要 2. 作表機能を例としての基本操作 1 3. 作表機能を例としての基本操作 2 4. 作表機能を例としての基本操作 3 5. 成績処理を例としての応用操作 1 6. 成績処理を例としての応用操作 2 7. 成績処理を例としての応用操作 3 8. データベース機能 1 9. データベース機能 2 10. グラフ作成機能 11. アンケート処理 12. その他の応用例 13. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論（中級一万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。 Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思います。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。		1. ガイダンスと Excel の概要 2. 作表機能を例としての基本操作 1 3. 作表機能を例としての基本操作 2 4. 作表機能を例としての基本操作 3 5. 成績処理を例としての応用操作 1 6. 成績処理を例としての応用操作 2 7. 成績処理を例としての応用操作 3 8. データベース機能 1 9. データベース機能 2 10. グラフ作成機能 11. アンケート処理 12. その他の応用例 13. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03 年度以降（春）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではマイクロソフト社の Word を使って、コンピュータライティングの実践を行う。特に文系の学生がレポートや論文を書く際の技術を具体的に学んでいく。 もともとこのソフトはレポートや論文を執筆するのに特化したものではなく、我々が行う作業にとっては余分な機能がいくつもある。しかし作表や図像の取り込みなどを用いることによって説得的な文書を作ることが可能であることなど、その長所を生かした上で、あくまで実践的な作業に終始したい。 なにぶん一般的な使用方法ではなく、教師独自の強引な使い方(?)をする可能性があるのでは、覚悟してもらいたい。		1 回 導入のための説明 2 回 論文の表紙などの作り方（ワードアートなど） 3 回 アウトラインに沿った執筆 1 4 回 アウトラインに沿った執筆 2 5 回 脚注およびインデント 1 6 回 脚注およびインデント 2 7 回 図表の作成 1 8 回 図表の作成 2 9 回 図表の導入 1 10 回 図表の導入 2 11 回 グラフの導入(エクセルとの連携) 12 回 グラフの導入(エクセルとの連携) 13 回 （予備日）	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書などは授業開始日に指示する。		出席とレポート	

03 年度以降（秋）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ内容		春学期と同じ内容	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ評価方法	

03 年度以降（春）	情報科学各論（中級－HTML 正しく伝えるために）	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：ホームページは、閲覧者のパソコンによって表示のされ方が大きく異なる。全てのパソコン上で同じように表示されるページを作成することは技術的に不可能である。従ってこの講義では、できるだけ多くのパソコン上で最低限の情報を正しく表示させるための方法論について、実際にホームページを分析したり作成したりしながら考えていく。 対象者：ホームページの作成方法について、最低限の知識を持っている人を主な対象とする。全く知識がない人でも受講できるが、評価などは他の人と全く同一基準で行うので注意。 必要なもの：自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費は各自負担）。ホームページ作成ソフト類は不要。 その他詳細： http://www.birdcompany.ch/ 参照。		(1) ガイダンス (2) www の仕組み、ファイルの種類と必要なソフト、プラグイン、文字コード、機種依存文字、ブラウザの問題 (3) HTML の基礎の確認(1) (4) HTML の基礎の確認(2) (5) 課題① (6) ディレクトリ構造、様々なリンク設定、フレーム (7) ナビゲーションとサイト構造 (8) 課題② (9) ホームページ作成ソフトとその問題点、pdf の利用 (10) css と javascript (1) (11) css と javascript (2) (12) 携帯向けサイト (13) 課題③ なお、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも 1 週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML 美しく見せるために）	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：春学期は最低限の情報を正しく伝える方法を学ぶが、秋学期はそれをふまえて、より美しく見せる方法を学ぶ。 対象者：春学期と同じ。 必要なもの：自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費もかかる）。ホームページ作成ソフト類は不要。また、秋学期には画像処理を行うので、デジカメまたはカメラ付き携帯電話を持っていることが望ましい。 その他詳細： http://www.birdcompany.ch/ 参照。		(1) ガイダンス (2) レイアウトの基本、フォントの扱い (3) 色の特性、配色の基本 (4) 課題① (5) 画像ファイルの特性 (6) 画像処理 (7) アイコン・ロゴの作成 (8) 地図の作成 (9) 課題② (10) フォトアルバムの作成 (11) javascript の利用 (12) 課題③(1) (13) 課題③(2) 秋学期からの受講も可能だが、春学期に扱った内容については知っているものとして話を進めていくので、各自自習しておくこと（希望すればプリント類を配布、質問にも答える）。また、春学期同様、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも 1 週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論(中級—HTML 応用 1)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： <u>ガイダンスには必ず出席すること</u>。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（1） 3 HTML と FTP の復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGI の利用 11 総合課題（1） 12 総合課題（2） 13 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論(中級一表計算応用 1)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は MS-Excel（表計算ソフト）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。 Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。 基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきた Excel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成される VBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。 初回の授業に必ず出席すること。		1 授業のガイダンス 2 計算式および関数の復習 3 マクロ機能について 4 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（1） 5 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（2） 6 第 1 回目課題の作成 7 VBA の基礎（1） コードの入力 8 VBA の基礎（2） コード入力で簡単なゲームを作成する 9 第 2 回目課題の作成 10 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（1） 11 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（2） 12 最終課題の作成（1） 13 最終課題の作成（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
(1) 初回の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を配布する。		授業中に指示する課題（30％）と出席状況（20％）と最終課題（50％）で総合評価を行う。	

03 年度以降（春）	情報科学各論（中級－ 自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門 1）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。 [概要] コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が生かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかってくるということがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業では、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい		1. ガイダンス 2. コーパスとは何か 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作: MS Excel 5. 高度な Web 検索方法 6. British National Corpus (BNC) の紹介 7. BNC を利用した語句検索 8. BNC を利用した共起検索 9. BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較 10. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴 11. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い 12. 映画コーパスの分析: 品詞分析 13. 最終レポートの準備	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03 年度以降（秋）	情報科学各論（中級－ 自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門 2）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 春学期に引き続き、コーパス分析を行うが、今学期は受講生が自らの英語学習あるいは英語分析に必要なと思われるコーパスを作ること、それをより洗練された方法で分析する知識と方法を身につけることを目的とする。 [概要] WWW を中心とした膨大な電子データが身近にある昨今、それらはわれわれ英語学習者にとっての非常に有効な reference となり得る。本学期の前半は、受講生個々人が自分専用の参照資料となり得るようなミニ・コーパスの構築を行っていく。コーパスファイルを形成するにあたっての注意点、著作権への留意点を合わせて扱う。 後半は、英語を母語としない人たちの発話（書き言葉を含む）を集めた、いわゆる「学習者コーパス」の分析を行う。そこで、日本人に特徴的な語彙、文法の使用や誤りなどについて取り扱っていく。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「情報科学各論（中級－自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門 1）」を受講していることが望ましい		1. ガイダンス 2. コーパスファイルの特徴 3. コーパスの作成（グループワーク）(1) 4. コーパスの作成（グループワーク）(2) 5. コーパスの作成（グループワーク）(3) 6. 自作コーパスの分析: 特徴語彙の抽出 7. 自作コーパスの分析: 品詞タグの付与 8. 自作コーパスの分析とレポートの準備 9. 学習者コーパスとは 10. 学習者コーパスの分析: 語彙的特徴 11. 学習者コーパスの分析: 文法的特徴 12. 学習者コーパスの分析: 特徴的な誤り 13. 最終レポートの準備	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降(春)	情報科学各論 (中級一言葉の特徴をコンピュータで見る1)	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です) 本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいたとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)		1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト(1) 8 Excel 関数のネスト(2) 9 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 10 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 11 データベース上のデータの蓄積方法 12 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 13 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03年度以降(秋)	情報科学各論 (中級一言葉の特徴をコンピュータで見る2)	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。		1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ 11 文の長さが意味するものー標準偏差・変動係数 12 語彙密度・K 特性値 13 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降（春）	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03 年度以降（秋）	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. インフレとデフレ 10. 政府債務と財政赤字 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス フランス語学科

2008年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	